

平成25年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

平成25年6月14日(金曜日)

議事日程第2号

平成25年6月14日(金曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 20名

出席議員 20名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	14番	伊井澤一郎君
15番	吉岡静夫君	16番	新保峰孝君
17番	倉又稔君	18番	松尾徹郎君
19番	五十嵐健一郎君	20番	古畑浩一君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

+

総務部長	金子裕彦君	市民部長	吉岡正史君
産業部長	加藤政栄君	総務課長	田原秀夫君
企画財政課長	斉藤隆一君	能生事務所長	久保田幸利君
青海事務所長	山岸寿代君	市民課長	竹之内豊君
環境生活課長	渡辺勇君	福祉事務所長	加藤美也子君
健康増進課長	岩崎良之君	交流観光課長	藤田年明君
商工農林水産課長	斉藤孝君	建設課長	串橋秀樹君
都市整備課長	金子晴彦君	会計管理者 会計課長兼務	横田靖彦君
ガス水道局長	小林忠君	消防長	小林強君
教育長	竹田正光君	教育次長 教育委員会こども課長兼務	伊奈晃君
教育委員会こども教育課長	池田修君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務	原郁夫君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木繁雄君	監査委員事務局長	池田正吾君

事務局出席職員

+	局長	小林武夫君	次長	猪又功君	+
	主任主査	水島誠仁君	主査	山岸由尚君	

午前10時00分 開議

議長（樋口英一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、3番、渡辺重雄議員、13番、田原実議員を指名いたします。

+

次の日程に入ります前に、昨日13日に議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について委員長の報告を求めます。

倉又 稔 議会運営委員長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

倉又委員長。〔17番 倉又 稔君登壇〕

17番（倉又 稔君）

おはようございます。

昨日13日に議会運営委員会が開催され、特別委員会の設置について協議を行っておりますので、その経過と結果についてご報告いたします。

協議の結果、特別委員会につきましては、行政改革特別委員会、新幹線・交通網対策特別委員会及び一般廃棄物調査対策特別委員会の3特別委員会を設置することとし、特別委員会設置の発議につきましては、6月18日の一般質問終了後の日程事項として追加し、審議していただくことで、委員会の意見の一致をみております。

以上で、議会運営委員会の委員長報告を終わります。

議長（樋口英一君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

ご異議なしと認め、よって、委員長報告のとおり進めることに決しました。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は12人ですが、議事の都合により本日4人、17日4人、18日4人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原 実議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

おはようございます。

田原 実です。

今回の質問の1は、糸魚川の地域医療について伺います。

不足する医師・看護師をふやし、救急医療体制と市民の望む医療の質を確保する。新幹線開業も医療向上のチャンスとし、東京や金沢の大学病院とも連携し、糸魚川に専門医を派遣してもらうなど、翠の交流都市・糸魚川ならではの医療環境をつくり地域格差を解消する、その取り組みについて。

質問の2は、公共交通システムの再構築についてです。

市民の利便性の向上と交流人口増大のため、新駅・押上駅を建設し、えちごトキめき鉄道と大糸線を連携して、ジオパークに人を呼び込むなど経済効果をもたらす交通政策について。また、トンネルなど交通インフラの耐用年数や補修についての責任の所在、市の役割について。

事前に提出した発言通告書に基づき質問をいたします。

1、医師・看護師確保など地域医療の諸課題と糸魚川市の対応について。

- (1) 糸魚川圏域の医師・看護師数の現状と課題について伺います。
- (2) 365日24時間救急医療体制の現状と課題について伺います。
- (3) 医療の高度化、専門化への対応と課題について伺います。
- (4) 市民及び医師の高齢化への対応と課題について伺います。
- (5) こどもの命を守る糸魚川市の取り組みについて伺います。
- (6) 医療の不足に関する市民からの声への対応について伺います。
- (7) 豊かな自然環境や北陸新幹線など、糸魚川の地域性を活かした医療体制の充実について伺います。

2、市内公共交通の確保と充実及び交通インフラの安全について。

- (1) 新幹線、鉄道、バス、タクシーなど市内公共交通の現状と課題について伺います。
- (2) えちごトキめき鉄道の課題と、新駅「押上駅」設置について伺います。
- (3) 糸魚川バスの課題と、市民や観光客に便利なダイヤ編成について伺います。
- (4) 病院、診療所への交通に対する糸魚川市からの支援について伺います。
- (5) 北陸新幹線糸魚川駅からジオサイトへの2次交通の充実について伺います。
- (6) 公共交通を利用する学習や社会教育について、糸魚川市の取り組みを伺います。
- (7) 糸魚川市内の全てのトンネルの耐久性と安全確保について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、22年12月末で医師60人、看護師は265人が登録されておりますが、国、県の平均より少なく、医師・看護師の確保が課題であります。

2点目につきましては、糸魚川市医師会や糸魚川総合病院等にご協力いただき、実施いたしております。

3点目につきましては、糸魚川総合病院へ医療機器の導入助成や、医師と看護師の資格取得への支援などを行っておりますが、専門の医師・看護師の養成が課題であります。

4点目につきましては、市民の健康増進や介護予防等により、重度化の抑制に努めております。

5点目につきましては、乳幼児健診をはじめ予防接種、医療費助成などの多くの事業を実施いたしております。

6点目につきましては、市民からのご意見の内容により、医師会及び糸魚川総合病院と協議をし、対応をいたしております。

7点目につきましては、市の自然環境の魅力や新幹線開業に伴う利便性向上などの情報を積極的に発信することにより、医師等の確保に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、自家用車の普及や人口減少により、通勤・通学等の利用が大きく減少いたしており、経営やサービス維持に苦慮している状況であります。そのため、いかに利用拡大や利便性、採算性の確保を図るかが課題となっております。

2点目につきましては、輸送密度の低い区間であるため、安定経営ができない点が大きな課題であります。新駅は利用者数の増加や利便性の向上、費用対効果等について会社、県、市で協議してまいります。

3点目につきましては、利用者の減少により営業収入だけでは採算がとれないこと、及び運転員の確保が課題と考えております。ダイヤにつきましては、公共交通会議や地元の意見を反映した編成になるようお願いをいたしております。

4点目につきましては、基本的に病院や診療所への通院に配慮したバス路線を組み、運行いたしております。

5点目につきましては、市街地巡回バス、土日・祝日の運行の街めぐりバス、さらに駅から観タクン、駅レンタカー、レンタサイクルがあります。そのほか四季折々の定期観光バスも運行いたしております。

6点目につきましては、小学校では公共交通について学び、路線バスの乗車体験を行っております。

7点目につきましては、高速道路、国道、県道、市道のそれぞれの道路管理者が、耐久性について調査検討し、対応しているところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくようお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番(田原 実君)

では、2回目の質問です。地域医療について担当課に伺います。

数日前の新潟日報の記事によれば、人口10万人当たりの指数は、平成10年では新潟県は全国で42位、深刻な状況であり、県内の医師、教育関係者らが、医師不足を話し合う一般向けシンポジウムが、この29日に開かれる。主催者は、医師不足は県民一人一人にかかわる問題、それぞれに何ができるか考えるきっかけにしたいとのこと。では、全国で42位の新潟県で、さらに医師・看護師が少ない糸魚川圏域の状況はどうですか。医師・看護師数について、最新の情報の中で新潟圏域や上越圏域と比較し、分析をしていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長(岩崎良之君)

おはようございます。よろしく申し上げます。

医師・看護師の数で最近の数値は、平成22年10月末現在の数字でございまして、比較ということですので、人口10万人に対しての医師・看護師数で回答させていただきます。

医師につきましては、全国平均は219人であり、新潟県全体では177人です。上越圏域では上越市は162人、妙高市は71人、糸魚川市は126人であり、糸魚川市は県内20市で、多いほうから10番目となります。

また、看護師については、全国平均は744人であり、新潟県全体では784人となっております。上越圏域では上越市が896人、妙高市は527人、糸魚川市は556人であり、県内20市では、多いほうから14番目となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

田原議員。

13番(田原 実君)

では、糸魚川市の医師や医療技術者の確保対策について伺います。

糸魚川市の医師や医療技術者の確保対策、何に、どのくらいの予算が使われているか、また、その効果はどうですか。また、糸魚川市での就業促進としての就業助成、就業環境の向上については、こういった状況でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長(岩崎良之君)

医師や看護師等の医療技術者の確保対策といたしまして、平成24年度では、医師養成修学資金貸与事業で4人分、1,170万円、医療技術者修学資金貸与事業では23人分で、1,078万円を貸与させていただいております。

また、就業助成、就業環境の向上面では、看護師就職助成金交付事業として270万円、医師の住宅確保や職場環境の向上として、医師確保対策事業補助金として2,000万円を支出させていただいております。

医師養成修学資金を最初に利用された方が、平成24年4月から臨床研修医として糸魚川総合病院にお勤めいただいております、来年4月からは3年連続で、その修学資金を利用された方が、研修医としてお勤めいただける予定となっております。

また、就職助成金を利用して、糸魚川総合病院に就職された看護師は9人おありまして、そのうち6名の方が修学資金も利用された方ございまして、各種の取り組みは、効果が出てきているものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

新潟日報の記事によれば、県内130の病院で充足率が7割と看護師不足が深刻な状況にあり、新潟県は資格を持ちながら職についていない潜在看護師の再就職支援を強化すると。県は結婚や出産を機に退職した元看護師が、県内には約1万人いると推計し、現場の環境を取り戻してもらう講習会を新潟、上越、佐渡など8市、計16会場で、また、採用情報を提供する相談会も13のハローワークで、計48回開くとのこと。潜在看護師の再就職についての糸魚川市の状況、また、県の取り組みへの対応について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

出産で退職された看護師の復職などについては、糸魚川総合病院とも協議をしてきた経緯がございます。

今回の新潟県の取り組みにつきましては、7月10日号と10月25日号の「おしらせばん」で、県のそれぞれの講習会や相談会を掲載する予定でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

「おしらせばん」に掲載するということとどまるわけでしょうか。もう少し積極的な取り組みというものはされないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

お答えします。

新聞等の情報によれば、新潟県が県内で実施するのが16会場ということで、私ども糸魚川市が含まれてるかなというふうにちょっと調べてみたんですけども、残念ながら今回、上越地域については上越市の2会場であるということでありました。したがって、当面の対応につきましては、今ほど課長が申し上げましたように、市内に以前に看護師で勤めておられた方で、やめられた方については、そういった機会を利用してまた復職いただけるような、まずは情報を出していきたいというふうに思っております。

それから今後、私どもやはり看護師不足であるということがございますことから、この新潟県と同じような取り組みについて、今後、糸魚川総合病院等の機関と相談をしながら、私どももこの糸魚川市で開けるように検討、調査を行ってまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、救急医療体制について伺います。

医師・看護師が不足する中での今後の対応が非常に心配であります。糸魚川タイムスの記事によれば、救急医療体制の維持は全国で問題、上越圏域も同様で、増加する急患数のため現場の疲労感の色濃い。中には救急の必要性が低い患者の搬送も少なくなく、コンビニ診療と称される事例もあると。夜間・休日に受診した患者のうち、自主来院が救急搬送の3倍以上、その約8割が入院を必要としない軽症患者が占めると。病院は夜間・休日に、スタッフが極端に少なくなる。そこへ軽症患者が集中すると、重篤患者の治療を受ける機会を奪いかねない。病院の医師は通常の診察などに加え、当直や手術もこなす。当直後も休みなく、32時間以上の連続勤務になることもあると。休日も急患の呼び出しがあれば対応し、過酷な勤務を強いられている。救急医療を担う病院の当直医に休息はない。医療現場は慢性的に人手不足の状況だ、今以上にスタッフが疲弊し、救急医療体制が崩壊しかねない。体制維持のため、住民一人一人が適正な受診を考えなければならない時期にきていると。これは上越の状況についてのレポートですが、上越と比較し医師・看護師不足、糸魚川のほうが深刻であります。糸魚川の状況についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

上越市につきましては、確かに時間外とか救急利用されて受診される方が大変ふえており、現場は大変だというふうにお聞きしております。

当市につきましては、平成24年度、救急車で搬送された方は1,870人ということで、前回は1,906人でしたので、若干数は減っております。また、糸魚川の休日・夜間の時間外外来ラインにつきましては、平成23年が6,550人ほどでしたが、昨年は6,440人ほどということで、これについても数が若干減っております。

また、よく問題になりますコンビニ受診というか、安易なことで救急車を利用される方は、糸魚

川市の場合は少ないというふうに現場からお聞きしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

しかしながら、医師・看護師の皆さんは働き詰めで、疲労がピークにあると思われます。この状況が続くと夜間の救急医療や専門医療がなくなる可能性もあるのではないかと。もしそうなれば子どもの医療にも大きな影響があります。だから政治の力で、迅速な対応を進めなければならないと考えます。

しかし、それは行政だけでできるものではありません。医師不足は、市民一人一人にかかわる問題です。市は市民それぞれに、何ができるか考えるきっかけとして、医師不足について話し合う一般向けのシンポジウムを開催し、状況と情報を市民に共有してもらう必要を考えないのでしょうか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

市民の皆様の啓発ということで、上越全体では糸魚川タイムスを使いながらシリーズで記事広告ということで、いろいろまた現状を訴える中で周知をさせていただいております。

また、今ご提案の糸魚川市民の皆様につきましては、私ども機会あるたびに「おしらせばん」などで周知させていただいておりますが、また、ことしについても地域医療フォーラムを実施していきたいと思っておりますので、今後、糸魚川総合病院、医師会と打ち合わせする中で、その内容についてまたご提案を含め、いろいろ検討させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

この2月に市民グループが医療フォーラムを開き、開業医の盛田先生がコーディネーターを務め、糸魚川総合病院の樋口病院長がパネラーとして病院の状況や、救急対応を市民に説明されました。担当課もパネラーで参加をされました。

そのフォーラム参加者のアンケート回答数は約60で、糸魚川市が毎年、医療フォーラムを開催していることを知っていましたかという質問に、「知っている」23名、「何となく知っている」11名、「知らない」22名。糸魚川市が開催している医療フォーラムに参加したことがありますかという質問に、「参加したことがある」18名、「参加していない」36名でした。市が毎年行う医療フォーラムを知らない人、参加しない人が多いようです。

また、フォーラムの内容である最近の糸魚川市の地域医療体制について、「よくわかった」

32名、「少しわかった」17名、「あまりわからなかった」4名。糸魚川総合病院救急外来棟の新しい役割について、「よくわかった」37名、「少しわかった」16名、「あまりわからなかった」3名。医師・看護師が不足する中で、救急対応を続ける病院の状況について、「よくわかった」41名、「少しわかった」11名。24時間365日夜間救急対応が、医師、病院の大きな負担であることについて、「よくわかった」39名、「少しわかった」14名。そして、フォーラムの目的である救急医療を続けるためには、市民からの理解と協力が必要なことについて、「よくわかった」40名、「少しわかった」13名、「あまりわからなかった」1名でした。

また、フォーラムについての感想、意見として、これからの地域医療、施設、人材の充実について、もっと市民にも働きかけて、市民意識を高めていただきたい。ラフな形での質疑・応答時間が欲しい。もう少し小さい集団で、意見交換できるようなフォーラムもよい。医師・看護師さんが、このまちに住んでみたいと思う魅力ある地域であることも必要かと思うといった声が寄せられました。今後の参考になれば幸いです。

さて、このフォーラムにおいて私が考えることは、日々の医療業務の中で疲れがたまってきたところに、苦情めいたことを言われると、その仕事をほうり出したいくなるのは人間ならあり得るという心配です。病院の専門性の確保も同様で、医師・看護師の数が足りないにもかかわらず、総合病院だから全てそろって当たり前ということが、糸魚川圏域だけで本当に可能なのか。いずれ無理がくるという心配であります。

その一方で、循環器対応はすばらしく、上越や富山に行かずとも、すぐれた治療が受けられると聞きます。人口5万人未満のまちで、できる医療とできない医療があることを市民によく理解してもらい、不満をためないようにする行政からの働きかけがもっと必要ではないか。それでようやく今の医療が守られていくということではないか。そこで、今、行政に寄せられている地域医療の不足への市民の声はどのようなものがあるか。また、その行政対応について改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

市民の皆様からのご意見ということで、最近では具体的なものといたしましては、糸魚川総合病院の耳鼻咽喉科の常勤医師が不在となりましたことから、利用者の方で心配のメールをいただいたことがございます。この件につきましても、病院と連携しながら対応を行わせていただくとともに、市でも「おしらせばん」などで周知など実施してきております。

今後ともそういう市民の皆様のご意見をいただいた場合は、やはり関係する医療機関と情報提供して、お互い一緒にその改善について協議させていただきながら、いろいろ対応していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

病院としては診療科不足、あるいは対応の不足を言われても、医師がいないとできないものではない。市民としては通院や治療に苦勞し、不便を感じると。あるいは、より専門的な高度な医療を受けたいと。

では、ここで行政が果たす役割は何だということですが、先ほど申し上げましたように、市民に現状をよく理解してもらい、また、不満をためないようにする働きかけがもっと必要ではないか。例えば医師不足を補うべく、予防医療の充実を進めて市民にアピールすることが大切だと思います。

糸魚川での死亡原因の一番は、がんであったと思います。がん予防について市は医療機関と連携して、糸魚川でできる医療を積極的に行い、充実させることで、医療への市民理解を得るのが行政の役割でないかと私は思います。胃がんの予防医療をさらに強く進める、このことはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

糸魚川市の市内の死亡率1位は確かにがんでございまして、そのがんの中でも1位は胃がんとなっております。昨年からはテレビ等で、よくピロリ菌について放送されるような機会がふえておりますが、胃がんの原因のほとんどがピロリ菌でありますことから、市では本年度から国保ドック受診者のピロリ菌検査を無料で実施させていただいております。今後、さらにその効果的な事業の拡大について、検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

効果的な事業の拡大について検討ということですが、もう少し踏み込んで答えていただけませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

今現在、国保の医療費削減の面もございまして、国保の人間ドック対象者とさせていただいておりますが、今後、さらに国保以外の方にも広げることができないかどうか、検討させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市民に喜ばれる医療対応をお願いします。

次に、市民及び医師の高齢化への対応について。

糸魚川総合病院の樋口病院長はホームページで、住民の高齢化が進めば医療のみならず、福祉、介護の重要性は増し、病院としては、現在行っている医療・福祉サービスを、さらに充実させる必要がある。地域に必要なものは何かを知るために、介護事業を中心に実態調査を行い、その結果をもとに、今後、行政や地域住民の皆さんとともに、医療・福祉サービスを充実させていきたいとコメントされています。

一方、最近、新潟県がまとめた県地域医療再生計画案では、国の交付金を活用して医師確保や高齢者の在宅医療の促進と強化のため13事業、計15億円を盛り込みます。そこで市がコーディネートして、市民及び医師の高齢化への対応に役立てていただきたいと私は考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

新潟県地域医療再生計画につきましては、平成23年度に作成されたものの中に糸魚川総合病院の救急外来棟整備を位置づけていただきまして、それに基づきまして実現されております。

今回の計画案につきましては、前計画で残された地域の再生計画や課題等が計上されておりますが、先ほど言われました糸病の調査の対応等につきましては、今後も県、市、病院が一体となって取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

わかりました。

糸魚川総合病院との連携、しっかりとってください。お願いいたします。

次に、子どもの命を守る糸魚川市の取り組みについて、もう一度伺います。

子どもの命を守る医療としては、子ども医療費入院助成、通院助成、ひとり親家庭医療費助成、子どもインフルエンザ接種助成などがありますが、これにどのくらいの予算が使われていますか。また、その効果はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。24年度の実績で答えさせていただきます。

子ども医療費助成につきましては入院・通院、それから調剤もあります。合わせまして、約6,100万円でございます。ひとり親家庭等医療費助成につきましても入院等合わせまして、約1,580万円でございます。子どもインフルエンザ予防接種助成につきましては約860万円、この3つ合わせますと約8,540万円となっております。

効果についてでございますが、子どもの疾病予防、早期発見・早期治療の促進、並びに保護者の経済的負担の軽減ということで、大きな効果があると思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市民からは、糸魚川市の子どもの医療への助成はありがたい、助かると感謝の声を聞いています。この場をお借りし、市長行政にお礼を申し上げます。

ただ、新潟県の各市町村は、独自に助成対象年齢を広げてきたことで、子どもの医療費助成が市町村で差があり、一方、全国では子ども医療費の無料化が進み、群馬県は子ども医療費を無料化し、所得制限なしで中学卒業まで通院・入院とも無料。北海道の南富良野町は、通院・入院ともに無料対象を22歳まで広げたと新聞記事にありました。糸魚川市の今後の対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

ご指摘のとおり対象年齢や一部負担金の取り扱い等、各市町村では施策等が財政事情等により、まちまちでございます。当市といたしましては、子育て支援、少子化対策ということで、これは重要な事業と考えておりますことから、年々といえますが、拡大をしまいったところでございます。この結果としましては、県内では入院につきましては、人数にかかわらず高校卒業までという取り扱いをしております。これはほかには十日町でございまして、この部分ではトップレベルというふうに考えております。通院につきましては、人数にかかわらず小学校卒業までとなっておりますので、県内では中学校卒業までが、半数を超えている状況でございます。

今後の対応でございますが、当面の課題といたしまして、通院につきまして人数にかかわらず、中学校卒業まで助成する方向で検討したいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

次に、子どもの救急対応について、市民の方からご意見をいただいておりますので、紹介します。

それは糸病さんと開業医さん、どちらをかかりつけにして子どもを診てもらったらいいかかわらないような状況があると。子どもが急変したときに、まず頭に浮かぶのは病院だが、もし病院がスタッフ不足ならば、糸魚川市において身近に相談できる窓口があれば安心が増すのだが、子ども救急の糸魚川市からの情報の出し方、相談対応を充実してほしいというものであります。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

子どもの救急の際でございますが、まずはかかりつけ医にご相談というのが一番だと思っております。開業医の先生方でも、時間外でも電話相談等で対応されている先生もでございます。市内には土曜日、あるいは日曜日にも診療している小児科の開業医の方もいらっしゃいます。そちらの利用。夜間につきましては、糸病の救急外来への相談、それと新潟県が行っております小児救急電話相談というのがございます。これは土曜日、日曜日、祝日、年末年始の夜間、これ10時までですが、看護師が対応しております。必要に応じて、医師のアドバイスも受けられるというものでございます。

これらについてはホームページ等でも周知しておりますが、今後、より一層の周知を図るよう努めてまいりたいと思っておりますし、今後も相談体制の充実に向けましては、県や医師会等とも相談、協議をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

小さい子どもさんを抱える若いお母さんたちは、当然、インターネット等を使って情報収集はしている。しかしながら、具体的な対応がほしいと。病院のほうの対応が難しい、あるいは小児科が非常に少ない中での対応が難しければ、やはり糸魚川市のほうで相談窓口になってほしいという、これは要望なんでありませぬ。そのことを今回よく理解していただきたいと、こう思うわけです。これからどのくらいの間に、そういった対応を進めるのか、もうちょっと具体的な答弁をいただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

現在、市でもこども課等を中心に相談窓口というのがございます。問題は、その休日、夜間等のことだと思っております。それにつきまして今後、検討に向けて検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

まだ庁内では、話し合いができてないんでしょうかね。検討に向けての検討というのは、ちょっと苦しい答弁だったと思えますけど、教育長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

今、次長が答えたように、完全に深く話し合いをしているわけではありません。ただ、糸魚川に住む子どもたちが困らないように、保護者が困らないように手を尽くしていきたいと、このように考えております。できるだけ早く動いていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川市は日本一の子育てを掲げる以上、子どもの医療においても日本一を目指すべきです。県内で一番の子どもの医療費助成、そして子ども救急の情報の出し方、相談対応、救急対応においても日本一となるよう、市として積極的に取り組んでいただきたいと思います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご指摘の点は非常にわかるわけですが、しかし医療という形になりますと、そう軽々に専門でない受け入れがどうやってできるのか、非常に問題であると思っております。

我々は5万人という市の規模の中で対応していきたいわけでございまして、精いっぱいこれに取り組むたいと思ってる次第でございまして、そういう中で特に医療に関しましては、この糸魚川市の医師会の皆様方、そしてまた糸魚川総合病院の皆様方とご相談をさせていただく中で、対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

続きまして、連携による医療の確保ということで伺いたいと思います。

上越の看護大が、糸魚川市と連携して住民の健康増進をサポート、市民の健康増進、福祉の向上に加え、不足している看護師確保につながればと、糸魚川市健康増進課が期待すると新聞報道にありましたが、今後の展開を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

新潟県立看護大学につきましては、ことしも既に地域看護学実習ということで、20人ほど受け入れをさせていただいております。また夏ごろからは総合実習で受け入れを行ってまいります。

さらに、これまでも能生地域で始めた、コミュニティミーティング等による地域活性化にもかかわっていただいております。そのような取り組みをさらに全市に拡大していければと思っております。また、市内の学習会等につきましても、連携して実施していかないかというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ここで伺いたいのは、不足している看護師確保につながればという、その部分なんですけど、そこはどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

先ほど申しましたように、昨年はいろんな制度をやったおかげで、糸病に9人ということでお勤めいただいておりますが、やはりこれからも確保するには、より多くの方から糸魚川に関心を持っていただく必要があります。先ほど言いましたように、毎年、実習等で20人以上の方がみえますので、そういう機会に、より糸魚川に関心を持っていただければというふうに考えております。実際、今回これに参加された方も、やはり市民の皆さんの対応に大変感激しておられましたし、そういうような機会を通じながら、糸魚川に関心を持っていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

わかりました。

ラブ糸魚川という気持ちから看護師さんを確保していくという取り組み、よろしく願いいたします。

では、富山大学、新潟大学との連携、医師の派遣や臨床研究の補助の現状について伺いたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

富山大学、新潟大学の連携につきましては、現在、糸魚川総合病院の常勤医師30人のうち、富山大から24人、新潟大から4人という形で派遣をいただいております。また、非常勤医師につきましても約70人ほどいらっしゃいますが、多くにつきましては、富山大からご協力をいただいております。

また、臨床研修への補助といたしましては、富山大学、新潟大学と大学連携臨床研究支援事業として実施しておりまして、例えば市民のピロリ菌の感染調査や、メタボリック症候群、糖尿病の有病率の調査など実施していただいておりますし、地域医療フォーラムで発表していただいたときもございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

高度医療への対応ですとか専門医の確保ということになりますと、今後は新幹線を活用した金沢大学などの北陸圏域の大学や関東、首都圏の大学、医療機関との連携で、専門医師を派遣してもらう必要も増してくるかと思いますが、その点はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

新幹線開業に伴いまして行動範囲、通勤範囲は拡大いたしますし、広域的な医師確保につきましては、糸魚川総合病院の先生方もいろんなネットワークがございますことから、連携をしながら努めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そこは、やはり政治の力だと思います。全国各地には糸魚川出身で、医療の世界で活躍されて地位を得ていらっしゃる方、また、これからの活躍が期待される方がいらっしゃるわけで、こういった方々のお力、お知恵をお借りし、定住と言わずとも、たとえ短期でも糸魚川で働いてもらえる医療人材を送り込んでもらう手だても考えて、実行していかないと、人材確保はますますじり貧になってしまうと、このように心配もしますが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

糸魚川出身の医師については調査をさせていただいておりますが、今ほど把握しているのは、やはり15名程度でございますので、さらに医師会からの情報を提供していただきながら、人材確保に努めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川は、世界ジオパークのまち糸魚川なんですよ。豊かな自然環境や北陸新幹線など、糸魚川の地域性を生かした医療の確保と充実も、また世界ジオパークのまちにとって、必要なことではないでしょうか。ジオパークは世界的、しかし、地域医療は悲観的というわけにはいきません。市長行政の知恵で、ジオパークの魅力と医療を結びつける策というものは何かないでしょうか、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

医療従事者の皆様方におかれましては、非常に自然を敬愛しておられる方が多くおられまして、そういった情報を流しますと、非常にいろんな要望で行く機会が多いわけですが、大体半分ぐらいの時間は、それに費やしております。そうしますと非常に我々といいたしましても、糸魚川のこのよさというものもご理解いただいているのかなと思っております。そのようなことで海や、また山というところで、非常に多くの先生方がおいでいただいているわけですので、そういった魅力というのにもつながっていくのかなと思っております。

しかしながら、ただそれだけではおいでいただけないわけですので、それに対して我々はどうのような対応をすればいいのか。また、個々によってもいろいろ違うわけですので、その辺は糸魚川総合病院の先生方と連携をしながら、働きかけていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

つながりづくり、それから人材確保ということに関しましては、米田市長のお人柄と熱意、これで引っ張ってこれるのではないかと大変期待をしておりますので、よろしく願いいたします。

さて、最後になりますが、糸魚川ジオパークと同じチームエコプロジェクトに参加する新潟薬科大学では、薬草・薬樹交流園とサテライトキャンパスを新たに開設し、交流園には薬草や樹木を植えて研究に使い、サテライトキャンパスには薬学部の臨床実習、実務に使うということで、臨床薬学教育棟をつくり、市民との交流に活用するということでありませう。

さて、糸魚川地域は、気候が湿潤でよい草が繁茂しているところが多いということを聞いておりますけれども、ゲンノショウコ、ユキノシタなどの薬草があることでも有名であります。ならば糸魚川でも薬草栽培と医療連携により、医療のジオパークというものを展開できないかと考えるわけですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど薬草という、私もちょっとピンとこないようないい提案といたしますか、受けたわけでございますけれども、確かにこの後、ほかの議員の方も、いかに糸魚川市が稼ぐか、あるいはもうけるか、あるいは地域を活性化するかというような仕組みづくりのご質問をいただいております。

そういった中で、耕作放棄地をはじめとしまして糸魚川市の土地を有効に活用するという中で薬草栽培と、私も以前、聖学院のご父兄の中に、そういう関係者の方がいらっしゃったことがありまして、例えば朝鮮ニンジンだとか、あるいはドクダミだとか、いろいろな薬草の栽培をできないかどうかというご提案を受けたことがあります。

そのときに課題となりましたのが、例えば栽培者のほうから見まして、例えばそういう薬草を栽培する場合に、他の農産物に比べて収入が多く得られるか。あるいは、そういう薬草の栽培の技術がうまく伝達してもらえるか。そして、あわせて長期間にわたって販路が確保でき、なおかつ出荷、流通を行える業者が協力していただけるかといったような課題がありました。

また、引き取り側にとりましては、そういう薬草をやはり一定期間といたしますか、長期にわたりまして、まとまった量をつくっていただけるか。そして品質についても、できるだけばらつきがないようにしていただきたいし、また、適切な価格で出荷してもらいたい、こういうような要望がございました。

そのように非常におもしろい提案だと私は思っています。そういった中で、地域活性化をしていく中で今の方法も、今ほど挙げました課題をクリアするべくいろいろ調査することは、今後の糸魚川市の活性化につながるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ご答弁にありましたように、「薬草」をキーワードとした糸魚川のビジネスモデル、医療のジオパークの推進ということを期待しております。よろしく願いいたします。

では、質問の2、市内公共交通の確保と充実、交通インフラの安全について、2回目の質問をさせていただきます。

まず、糸魚川市内の全てのトンネルの耐久性と安全確保について、いま一度担当課より詳細を伺いたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

中央自動車道の笹子トンネルのトンネル内の天井板が落下した事故を受けまして、国土交通省のほうから緊急点検をなささいということで要請がありまして、2月にトンネルの点検を実施しておりますけれども、通行に支障がある損傷までには至っておりません。今後、詳細な点検をしまして、修繕をやっていきたいというふうに考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今お答えいただいたのは、糸魚川市で管理する市道の2カ所のトンネルで、築48年と築35年、この2カ所だけですよ。私の質問は、市内の全てのトンネルということでありますので、鉄道、道路にかかる、これは県、国、それらのそういったインフラということなんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

市内のトンネルの数については、東日本高速道路株式会社が管理する北陸自動車道に17カ所、国土交通省が管理する国道8号に3カ所、新潟県が管理する国道148号に6カ所、それと県道上越糸魚川自転車道線という、昔の名前では久比岐自転車道と言っておりましたけれども、その路線に3カ所、それと市が管理する市道に2カ所ということでありまして、合計で31カ所であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

鉄道に関連するトンネルは、北陸本線で富山県境から名立間で11トンネル、それから大糸線で平岩から糸魚川間、これも11トンネルございます。これにつきましては、当然、JR西日本のほうで、鉄道に関する技術上の基準に則して安全点検を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

林道の関係では奥地になりますけれども、2カ所のトンネルを有しておりまして、現在、国の補助を受ける中で、目視によります調査活動を今行っているところであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番(田原 実君)

先ほど笹子トンネルの事故の話が出ました。それでこのことを受けて国のほうも、各市町村のほうにいろいろと通達を出して確認をしたということでありまして、全国の市町村にあるトンネルを管理する市町村が、トンネルの点検方法のマニュアルを持っていなかったという実態があるということが新聞報道にありました。また、トンネルが完成して以降、一度も詳細な点検を実施していない市町村が多数あり、市町村はその理由について、トンネルは壊れにくいと思っていた。維持管理には予算はつきにくく点検できなかった。コンクリートできているんだから、50年くらいはもつだろうという意識があったという認識で、担当課に土木技術者の職員がおらず、どうやって点検すればいいかわからない。そもそもトンネルが、いつ壊れるかわからないという考え自体がなかったという認識を持つ自治体もあるということがわかったということでありまして、糸魚川はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長(申橋秀樹君)

まず、トンネルの点検マニュアルでございますけれども、独自で持ってる市町村は、ほとんどないと聞いております。糸魚川市にもありません。しかし、日本道路協会が作成した道路トンネル維持管理便覧、国土交通省が作成した道路トンネル定期点検要領、附属物、標識、照明施設等の点検要領、トンネル換気設備・非常用施設点検・整備標準要領というのがありまして、これらに基づいて点検をすることになります。

それから笹子トンネルの事故を受けまして、また、国土交通省が平成25年2月に総点検の実施要領(道路トンネル編)というのを、これは主に市町村が総点検を実施する際の参考として作成したものであります。今後はこれらの要領に基づいて、糸魚川市に必要なトンネルの点検をやりたいというふうに思っております。

それから点検についてですけれども、トンネルは壊れにくいとか、50年くらいはもつとか、どうやって点検すればよいのかという、そういう偏った考え方は持っておりません。トンネルに変状が見られた場合、早急に補修なり補強をしていかなければならないと思っております。2月にも国の要請を受けて緊急点検を実施しておりますし、これからも通常の道路パトロールの中で、目視点検を行っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

田原議員。

13番(田原 実君)

いずれにしましても、市内インフラの管理と安全保持は誰が責任を負うのか。改めて危機感を持ち、今後の対応をお願いしたいと思いますが、トンネルのみならず山などを切り開き道路を通した場合に、斜面に打ち込み法面を支えるアンカーなども緊急の補修が必要なことがあるというふうに指摘を受けてるそうです。そういったことは、今後、市の対応としてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

先ほど申しましたようにトンネルのみならず、そういう切土斜面のアンカーボルトだとかというようなこともありますし、橋梁もありますし、道路ストックの総点検の中で、今後、また実施していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

インフラの安全確保について伺った後に、次の質問に移るわけではありますが、新幹線、鉄道、バス、タクシーなど、市内公共交通の事業についての糸魚川市の年間予算はどのくらいなのか。また、その事業の運用に、何名の市の職員がかかわっているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まず、都市整備課の公共交通予算ということでございますが、市内交通よりも、これは新幹線では、まず、負担金も含めてハード整備で、今年度事業予算では25億1,000万円、また、ソフトとして500万円を計上しております。担当職員につきましては、新幹線推進係5名と、それから駅の建築等もございますので、建築の者もこれを補うということ。それから当然、補佐、課長がその職務についておりますし、また、鉄道関係では約1,070万円ほど、また、バス関係では1億4,100万円ほど。職員はそれだけの職務ではありませんが、担当として2名、当然、係長、それから補佐、課長も職務となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

交流観光課の公共交通関連の予算につきましては、定期観光バスで250万円、街めぐりバスで320万円、スキー場の利用促進バス運行で440万円となっております。3人の職員が関係をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

合併して8年が経過し、また、新幹線開業を2年後に控えて、糸魚川市の公共交通政策はどうか

っているのか。計画じゃなくて現実的なところで現場はどうだ、公共交通を利用する市民、利用者に満足はあるのかなのか、また、不満への対応はどうなるか。その現状と行政の対応をいま一度担当課に伺ってみたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

都会とは違いまして、なかなか鉄道、バスの公共交通網が網の目のように広がっているわけではありませんが、一応今のところ、基本的にはマイカーが主流であることは間違いありません。そういう中では、利用者の総数が限られている中で、通勤・通学、生活路線としては減少していく現状であります。これにつきましては、まず路線なり、そういうものを維持していくことが重要かと考えておりますし、また、新たに開業いたします新幹線を核にしまして、鉄道、バス等の2次交通を組み合わせて、観光等の利用促進を努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

当課が担当しております街めぐりバス、それから駅から観タクン、定期観光バス、いずれにしてもお客様から利用していただく、特に市外の方から利用していただくということが目的でありますので、コースの見直し、それから利用方法の見直し、そういったものを声を聞く中で改善しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

声を聞く中での改善ということで結構であります。そういった会議というのは、こういったメンバーで、どのくらいやられてるものか。あるいは一般の利用者の方の声は、そこに反映されるのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的に、バスのダイヤの点でお答えいたしたいと思いますが、バスのダイヤにつきましては、長年の経験や実績を見た中で利用者の声、それからふぐあい、それから乗車の状況を含めた上で、編成、改正をしている状況でございます。これにつきましても糸魚川バスの職員と一体となりまして、意見を交わしたり、また、場合によっては指導もいたしておりますし、また、基本的にはダイヤ編成につきましては、公共交通会議というものを開いた中で行っておるところでございます。これにつきましてはバス事業者、それから国土交通省の職員、それから関係者等で構成しておるもの

でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

先ほどもお答えしたように利用者の声、それから運行している糸魚川バス、そういった方の声を聞く中で、そういった方と協議しながら改善のほうを進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

先ほど金子課長の説明の中で協議会の中に、いわゆる一般市民、一般利用者というものは入っていなかったと思うんですけど、そこが一番大事な部分じゃないかと思うんですけどね、そこはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

失礼いたしました。

この公共交通会議は産業部長が会長となりまして、先ほど申し上げました事業関係者、それから一般市民の中でも児童委員連絡協議会とか、民生委員の皆様、それから糸魚川市の校長会の会長でありますとか、老人クラブの方々も含めた中での会議となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ですから要するに本当に利用している人、一般利用者、市民の声というのが、ちゃんとそこで把握できてるかということですよ、質問の趣旨は。そのことを担当課はちゃんと考えて、協議会をもって改善に当たっているかということを知りたいわけです。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

当然、日常の利用の中には市民の声という形で、バスの利用についても情報をいただいたり、それからいろいろ地域へ出ていく中で意見をいただいております。そういうものを含めた中で、そういうものを集めて公共交通会議のところに諮り検討をしておりますし、また、直接電話をいただいて、その地域に出向いて説明をするという、そういうこともございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ちょっと視点を変えましょう。病院、診療所への交通に対する糸魚川からの支援について、都市整備課は今の運行についての検討において、健康増進課あるいは福祉事務所と協議をしているか。また、どのように市民や利用者の声を聞き反映しているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

当然、医療バスや、それから老人のバスもあります。当然、ダイヤ編成前の会議の前に関係課が集まりまして、また、先ほども申しましたが、それに基づいてケースによっては地域に出向くなどして、利用者の声を反映しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そのことによって改善されたこと、具体的な例があれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これはことしの例でございますが、きらら青海線という形で、これはコミュニティバスでございますが、そういう中で青海地域、これまでは青海の事務所の付近までで運行しておりましたが、その付近のスーパーがなくなったという形の中で、もう少し東寄りまで運行していただきたいと、そういうような例もございまして、それについては緊急でございますので、公共交通会議の書面会議等諮りまして、運行の経路を延伸したというケースがございます。

それから、ことしではございませんが、いろいろな市民の意見を聞く中で、平成22年からは市街地巡回バスというようなものも運行している状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、糸魚川駅からジオサイトへの2次交通の充実について伺います。

都市整備課は交流観光課、あるいはジオパークの関係機関、さらにジオサイトの地域と協議をしていますか。どのように取り組んでいるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

具体的な協議という、この場でちょっとはっきり私はお答えできませんけれども、現在実施している2次交通、そういったものにつきましては、ある意味そういう方々の声、それからジオサイトへの交通をどうするか、そういうものを関係者と協議をする中で、今の2次交通の体系ができたものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、ジオサイトへ公共交通を利用する学習コースや観光ルートの設定については、どこが担当でしょうか。糸魚川市の取り組みを教育委員会とそれから交流観光課から、それぞれにお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオサイトへの公共交通機関の運行という話なんですが、基本的には、そういった交通アクセス的には整備をしますが、公共交通機関というのはまだ考えておりません。と申しますのは、やはり常に一定の人たちが行くという今状況にはなっておりませんので、そういったところは、これからの中で対応しなくてはいけないのかもしれませんが、今のところは、やはり交通アクセスの整備、安全性の観点から今行っておる状況でございますので、そういったところはまだ……。

いろいろ手段はあると思うわけでありまして。私は一番いいのは、やはり時間をかけて見ていただくのがいいわけでございますので、その辺について力を入れていきたいわけでありまして、そのようなある一定の人たちが来られるようになってくると、それはまたそれで考えなくてはいけないわけでございますが、今ある既存の交通手段で行っていただければ幸いかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

わかりました。

ただ、せっかく糸魚川ジオパークの中でジオサイトへ向かう折に、公共交通を使うということも大事なことはないかと思えます。そこで教育の現場、あるいは観光の現場において、やはりそのことも一つの目的として取り組むことが大事ではないかという意味合いで、今、伺っておるわけですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオツアーという形ではないのかもしれませんが、また、その辺がわからないんですが、やはり自然を愛する人たちが今おられるわけでございますので、既設の中で臨時的な対応ができないかという検討は、しなくちゃいけない部分もあることは確かでございますので、そういったところも含めながら対応をできればと思ってるわけでありまして、また、そういったようにいろいろ調査をする中においては、いろんな状況が起きると思っております。

特に、教育的観点でそのようにいくということになりますと、例えばミュージアムなどはどうあればいいのかということが、ご指摘の点だろうと思うわけでございますので、そういった状況も含めながら対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

あのミュージアムも、もちろんそうですね。それから筒石駅等も鉄道で行って、あのトンネル駅に入るといったことで、非常にジオサイトと、それから公共交通の両方の活用ができるいい場所ではないかと思っておりますので、そういったことをもう少しプログラム等も検討していただき、学習や観光に役立てていただきたいということを要望します。

それともう1点、えちごトキめき鉄道と、それから大系線を連携してジオパークに人を呼び込むなど経済効果をもたらす、その取り組みというものも今後必要かと思っておりますが、そのことはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

えちごトキめき鉄道株式会社が今の北陸本線を運営するようになって、今、ご指摘いただいたんだろうと思うわけでございますが、現在でも大系線の旅という形の中で、直接向かうような臨時列車もやっていただいているわけでございますので、そういう中では、やはり誘客が図れるということになれば、そういったものを取り組んでいただけると思うわけございまして、我々地元といたしましても積極的に、そういったプログラムをつくりながら企業といたしまししょうか、JRや、また、えちごトキめき鉄道などにも、働きかけはしていかなくはないんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

その方向でお願いしたいと思います。

私たちは、あまりにも自家用車に依存する社会を推進してしまったのではないかと思います。交通弱者のための公共交通ということもありますが、交通インフラとしての公共交通への理解は、子どものうちから始めないといけないと思います。体験学習だけでなく、いかに必要なものを教育してほしい。そして地元住民には、日常としての公共交通の利用、観光客には、非日常としての楽しい公共交通の利用を進める取り組み、これを行政が主体的に、強く推進してほしいと思います。

では、えちごトキめき鉄道の課題と、押上駅設置について伺います。

北陸新幹線の開業の機会に、市民の利便性の向上と交流人口増大のために新駅・押上駅を建設すること。えちごトキめき鉄道と大糸線を連携してジオパークに人を呼び込むなど、経済効果をもたらす交通政策を進めるべきと思いますが、関係する担当課のお考えを、まず伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

当然、えちごトキめき鉄道は、もうJRから切り離されますとこれは地域の鉄道、市も当然、経営にかかわっておりますので、そういう面でいろいろな利用を考えていかなければならない。なかなか生活路線としては、利用者増はいろいろ見込みにくい点もありますが、その辺についてもマイルール意識を持ってもらうこと、それからいろんなものを企画して、より一層交流人口の拡大に努めるなど、いろんな点を詰めた中でお互いに協力して、より一層身近な鉄道として、また、意見も当然言いやすいわけですから、そういうものも物申すような形で進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

県立糸魚川高校では、5月12日の保護者会総会の中で、えちごトキめき鉄道嶋津社長から説明を聞き、保護者からは新駅設置までの取り組み活動などで質問が挙がったと新聞報道にあります。

嶋津社長は、利用者が増加し利便性が高まる効果が必要。沿線自治体、地域と協議しながら進めたい。また、募金や署名など熱意の表現が大切、押上区との連携も必要になる。新駅設置で、より広範囲からの通学生がふえる可能性があるかと答えたそうです。今後の行政対応について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

高校からの要望は承知しておりますし、その辺の説明会の状況もお聞きしているところでございます。新駅につきましては、生徒がただ単に糸魚川駅からシフトするというだけでなく、当然、通勤・通学の皆様はもとより、地域の日常的な利用や、その他交流人口の拡大につながるようなプラスアルファの利用者増が、大きなポイントとなると思っております。どちらにしましても、かなりの経費がかかることとなると思っておりますので、その辺の負担も含めた上で、詰めていくことに

なると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

新駅・押上駅の効果ということ考えた場合に、糸魚川総合病院へのアクセスをよくするための押上駅の設置ということも考えられますが、このことは病院、市民、行政が連携し、新駅建設計画を大きく前進させるように、病院の利用者はもちろん地域医療全体のことを考えながら、新しいまちづくりの計画として取り組まなければいけないと考えます。この点、行政のほうは、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

新駅増設につきましては、いろんな観点から捉えなくていけないと思っておるわけですが、やはり一番大きく掲げるのは、利便性が高まることによって利用客がふえるかというところかならうかと思うわけでありまして、ただそこだけにつくってふえるかという、そうではなからうかと思うわけでありまして、いろんな観点から、要するに市民の皆様が使いやすいものをつくらなくてはいけないわけですので、そういったところを踏まえながら検討しなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原議員。

13番（田原 実君）

押上駅設置については、必ず進めなければならない事案と私は考えております。そして私の思いは、押上駅という名前につながる都市と農村の交流で、東京墨田区押上のスカイツリー押上駅と、糸魚川市押上のヒスイ海岸押上駅をつないで交流人口をふやす。交流人口200万人、さらに300万人の実現のためにも、このプロジェクトをぜひとも進めたい、進めていただきたいと思いますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように、やはりいろんな希望が持てる対応という形になれば、今、ご指摘の点も非常に希望の持てる方向性だろうと思うわけでありまして、そういった可能性について、それが実現につなげるかというのも含めながら、やはり考えなくてはいけないと思うわけでありまして、

今、ご指摘いただいている点については押上駅ということでございますが、それにつながるわけでございます。ちょっと今、課長が申しあげましたように、ただ糸魚川駅が、それが移動するだけで、それでいいのかということでございますので、もっともっとやはりほかの市民もつながるような他の駅も検討しながら、(仮称)押上駅も含めて検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

田原議員。

13番(田原 実君)

ありがとうございました。

押上駅の建設について、さらに強く進めていただくようお願いを申しあげまして、一般質問を終わります。

議長(樋口英一君)

以上で、田原議員の質問が終わりました。

11時35分まで暫時休憩いたします。

午前11時22分 休憩

午前11時35分 開議

議長(樋口英一君)

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

吉川議員。〔4番 吉川慶一君登壇〕

4番(吉川慶一君)

おはようございます。

ひめかわの会、吉川慶一でございます。

初めての一般質問ですので、ふなれな点等がございますので、よろしく願いいたします。

発言通告書に基づき質問させていただきますので、私がこのたび市議会を目指した思いを語らせていただきたいと思います。

私は長らく行政に籍を置き、市政、市民のために働いてまいりました。定年と同時に市役所から離れ、一市民としての目線から市政を見る機会ができました。市職員としての期間は、もちろん市政、市民のために一生懸命働いてきましたが、いざ、一市民として行政から離れ見たこと、聞いたこと、感じたことを素直に言いますと、やはり行政と民間の間にはギャップがあると言わざるを得ません。

行政側も市民側も、お互い言い分や考えもあることでしょう。根本的にコミュニケーション、連携がうまくとれてないことから、それらのギャップがあると感じております。そんなことはない

いう意見もあるでしょう。しかし、私がいろんなところで見聞きすると、事実としてあるのです。世界のジオパーク、新幹線開業などさまざまなことに関して、もっと対話と議論をし、いかにしてこのまちをよくするか、発展させていくか、私、吉川慶一は行政側の気持ちも民間側の気持ちも身にしみてわかる、何とか今ある課題の解決に全力を尽くしたいです。そして次の世代により形でパトタッチしたいという思いから、市議会議員を目指しました。

このたび負託を受けて当選させていただいたことから、日々市政発展と市民の生活向上に向けて粉骨砕身頑張りたいということを述べて、質問に移りたいと思います

1、まちづくりについて、2、交流人口の拡大について、3、ジオサイトの案内について、4、一般廃棄物最終処分場について、5、消防団の現況と災害対策について、以下についてお聞きいたします。

1、まちづくりについて。

(1) 糸魚川の自然観光スポット、おみやげ商品開発、糸魚川のもてなし等、糸魚川の観光素材（米・山菜・えび・かに・酒）の見通し、二度、三度と訪れたいまちづくりについて、具体的な実施計画をお伺いします。

(2) 商店街はもちろん、市民と共に観光客誘致を行うためにも、更なる協働が急務と考えられますが、具体的な案及び計画をお聞かせ下さい。

2、交流人口の拡大について。

(1) 交流人口の拡大を掲げていますが、具体的にどのようにして拡大をしていくか、行政のお考えをお伺いします。

(2) 豊かな自然を活かし、地域資源を活かした事業とありますが、具体的にどういうことでしょうか。

(3) 広大な自然があり、四季を通じて多くの人々が来市されていると思いますが、リピーターはどれくらいいるのでしょうか。

3、ジオサイトの案内について。

(1) 2009年8月、世界ジオパークに認定され、ジオマスター・ジオ検定を多くの市民が受講・受験されました。その後、受験者やジオマスターをどのように活用されましたか。

(2) また今後、受験者及びジオマスターをどのように活用する計画でしょうか。

(3) 世界ジオパークの再認定を目指していますが、市民の糸魚川ジオサイトに対する認識が薄いのではないのでしょうか。地域住民の方との密なる話し合いはできていますか。

(4) 市内に道路案内板や、解説板が少ないのではないのでしょうか。

(5) 市内に観光案内に関わる団体はいくつありますか。それらの団体とネットワークを組んでいますか。お伺いします。

4、一般廃棄物最終処分場について。

(1) 現在の廃棄物埋立地の対策について計画をお伺いいたします。

(2) 保有水等の対策をお伺いします。

(3) 長い間埋め立てられた廃棄物をどのように処理するか、お伺いします。

(4) 地すべり地帯に対する治山対策をどのようにしていくか、お伺いします。

5、消防団の現況と災害対策について。

- (1) 糸魚川市消防団員の定数 1,190 人と実数 1,079 人で、今後の増減見込みと地域別団員の増減はどうでしょうか。更に人口の減少に伴う団員定数の見直しについてお伺いします。
- (2) 現在、女性消防団員が活躍中ですが、更なる女性消防団員増員のお考えはありますか。
- (3) 地域防災計画についてお伺いします。過去、糸魚川市、大きな災害に見舞われてきましたが、災害はいつ発生するかわかりません。発生時のハザードマップが作成されていることは承知しておりますが、地域住民にどのように周知され訓練されていますか。また、来市中の多くの観光客にどのように周知しているかお伺いします。
- (4) 防災安全上から観光客に避難誘導路を明確にすべきと思いますが、行政としてどのようにお考えかお伺いします。

市内の避難誘導案内板の設置、非常時の案内人の指定はどうなっていますか。

指定避難場所の対応はできていますか。

地域の防災組織の達成率でどのように生かされているか。また、山間地の組織の育成はどうでしょうか。

自主防災への対応についてお伺いします。

以上、1 回目の質問とします。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、情報発信や誘致拡大を基本として、ジオパーク戦略プロジェクトに基づき各種施策を展開してまいります。

2 点目につきましては、現在も商店街などと連携をいたしまして事業を実施いたしておりますが、今後も各地域にこれを広げまして取り組んでまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、世界ジオパークのまちとしてジオパーク戦略プロジェクトを着実に実施することにより、交流人口の拡大を図ってまいります。

2 点目につきましては、自然景観、食、文化など地域にあるものに光を当て磨き上げ、ジオパーク活動により地域内外に広く発信し、地域活性化につなげていきたいものであります。

3 点目につきましては、24 年度ジオパーク観光動態調査報告書のデータによりますと、初めてという方が 23%、2 回目以上という方が 77% で、約 8 割の方がリピーターとなっております。

3 番目の 1 点目、2 点目につきましてお答えをさせていただきます。

ジオパーク検定やジオパークマスターは、多くの市民、事業所の方から受講いただいております。ジオパークの普及啓発に効果があるものと考えております。

3 点目につきましては、糸魚川ジオパーク市民の会、各学校、公民館、企業、団体などから積極的にジオパーク活動に取り組んでいただいております。着実に市民の認識も向上してきているものと受けとめております。

4 点目につきましては、現在 24 サイト中 20 サイトで解説看板が整備されております。今後も引き続き、案内看板や解説看板の整備を進める予定であります。

5 点目につきましては、ジオパークマスターの事業所をはじめさまざまな団体により、ジオパークに関連する観光案内がなされているところであります。特に、糸魚川ジオパーク協議会では、国、県、経済関係団体、交通関係団体、各種市民団体とともにネットワークを組んでるところであります。

4 番目の 1 点目につきましては、適正化工事を施工後、現処理場下流域に、新たなクローズ型最終処分場を新設する予定といたしております。

2 点目につきましては、現在、浸出水調整槽の工事を施工中であり、この後、集水工事により保有水の排除を行う予定としております。

3 点目につきましては、今年度、ごみ処理基本構想検討委員会で、最終処分場の再生事業を含め、ごみ処理のあり方等について総合的に検討を行う予定であります。

4 点目につきましては、処分場の周辺部で水抜きボーリング工事を行い、今年度、押さえ盛土工事による治山堰堤の補強を行っております。

5 番目の 1 点目につきましては、いずれの地域も高齢化等の影響により減少傾向で、定数に達しておりません。定数の見直しにつきましては、各地域の実情を踏まえながら消防団の皆様と検討を進めております。

2 点目につきましては、現在 22 名の団員から主に予防広報、応急手当指導等の活動をいたしていただいております。今後、増員を図ってまいります。

3 点目につきましては、これまでに 5 種類のハザードマップや防災ガイドブックを全世帯に配布いたしてあり、市や各地区で実施する防災訓練や防災出前講座等において活用いたしてあります。

観光客につきましては、ホームページで周知し、各施設の消防計画の中で、避難誘導體制が定められております。

4 点目の 1 つ目につきましては、現在、津波避難誘導看板の設置に取り組んでおり、今後も必要に応じて増設をいたしてまいります。緊急時の避難誘導では、案内人を指定することは考えておりません。

2 つ目につきましては、一次避難場所としての広場を 56カ所、避難所といたしまして進めておりますし、学校や地区集会施設など 142カ所を指定いたしてあります。

3 つ目につきましては、現在 65 組織で、設置率は 72.8% であります。自分たちの地域は自分たちで守るといふ地域の防災意識の醸成に生かしております。また、過疎化・高齢化が進んでいる地域については、複数の地区による合同設置等の働きかけを進めております。

4 つ目につきましては、引き続き設置に向けた支援と、防災訓練実施に向けた指導を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もさせていただきますので、よろしくごお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4 番（吉川慶一君）

ありがとうございました。

じゃあ2回目の質問をさせていただきます。

今、市長からもいろんな施策で方向づけをさせていただいておるんですが、私は先ほどご質問させていただいたように、どうも市民とのギャップが、若干あるんじゃないかということと、もう少し具体的なものが見たいということで、ご質問させていただきます。

まず、新幹線が開業まであとわずかになりました。これまでの地域振興、世界ジオパークを生かしていくためにも、市民生活で掲げたような目標、日本一の子どもをつくるとしても具体的な策がなければ、絵に描いたような餅に終わってしまいます。概要でなく、何を、いつまで、どのような指標でやるか、市民に対しても詳細がわかるような答弁をお願いしたいと思いますが、教育長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご指摘いたす点については、ちょっと広範囲でございまして、具体的にお答えにくいわけございまして、私がこのたびの選挙で掲げさせていただいたように、やはり30年後も継続できるまちにしないといけないということで、交流人口拡大を進めていきたいと思うわけございまして、具体的ということになりますと、私の任期中4年間で交流人口の拡大を200万人に上げていきたい。そういう中で、今、ジオパーク戦略プロジェクトで取り組んでいきたいと思っております。

議長（樋口英一君）

吉川議員にお伝えしますが、一般質問に示した要項で質問していただきたいと思えます。拡大されますと答弁のほうも困りますので、この質問事項に沿って質問してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4番（吉川慶一君）

失礼しました。

ジオサイトの件で若干お伺いいたします、関連で。先ほどお聞きしましたように、ジオパークマスター検定を受けておりますが、今、進めると思いますが、現在まで何名受けられたか、詳細を若干お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ジオパークマスターにつきましては275事業所、561人の認定となっております。

ジオパーク検定につきましては、初級・上級・達人級を合わせて、延べ1,175人の皆様から受験していただきまして、合格者数は908人となっております。ただ、達人級の合格者は今のと

ころ出ておりません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4番（吉川慶一君）

ありがとうございました。

市内、県外合わせてでしょうか。市外の方のPR、今後、市民以外、県外の方も多分に受けられておるんですが、その比率はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

申しわけありません。市外・市内の資料というのは持ち合わせておりませんが、取り組みとして、昨年から東京会場でのジオパーク検定というものを実施しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4番（吉川慶一君）

詳細は、また後ほどお聞きさせていただきます。

先ほど市長からも道路案内、解説板等がありましたが、非常に道路案内板、解説板が、若干、市内でまだ見えていないんじゃないかなと思います。そこで道路案内板、解説板、現在までどれくらい予算をかけておりますか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

平成25年度の予算でありますけれども、観光案内板の整備で1,500万円、それからジオパークの整備という形で1,930万円の予算になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4番（吉川慶一君）

多いか少ないかは別にいたします。ありがとうございました。

続きまして、一般廃棄物について若干お伺いいたします。

地元としましては、私、地元が大野でございますので、若干触れさせていただきますが、もう何年ご審議されてきたと思いますが、今現在、対策等で進められとると思いますが、その進めておる段階で、今後の工程で、いま少し詳細でお話いただきたいと。それはなぜかといいますが、具体

的に言いますと、この施設、今、対策工事をいつまでに終わるのか、やるのか、これをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

現在、適正化工事ということで、先ほどちょっとお話させていただきましたけども、治山だとか、それから保有水等の処理を行っております。その治山については、今年度で終了する予定でございます。それから保有水等の排除、それから調整槽の設置工事については、26年度で終わる予定にさせてもらっております。その後、浸出水の処理施設の増設工事というものがあります。それについては26年度にかけて、工事を行いたいということでございます。工程によっては、若干27年度にずれ込む可能性もなきにしもあらずですが、とりあえずは26年度に行いたいということでございます。それで一応、適正化のほうは、終了させていただくという形になります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4番（吉川慶一君）

適正化工事は今お聞きしてわかりました。その後、一般廃棄物処理については、先ほど市長から言われたように検討委員会でやっていく、これはわかりました。

私としましては今後の処分場とし、今後検討されていくと思いますが、安全である恒久施設として区民に十分説明ができる、早急に糸魚川のごみ処理を問題を協議し、一日も早い施設の完成を私は望みます。よろしく申し上げます。ごみは大変な施設でございますので、ひとつよろしく願いいたします。

最後に一つだけお願いしたいんですが、市長にお伺いします。

大野区で区から3月24日に「大野区だより」で、市内に折り込みを入れておると思います。市長さんも読んでおられると思いますが、感想をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

この一般廃棄物最終処分場の問題については、大野区の皆様方に大変ご迷惑をおかけいたしております。そのようなことで、いろいろ今進めてきておるわけでございまして、この問題につきましては私は今ご指摘のように、早く対応し、早くこの処理をしなくちゃいけないと思ってる次第でありまして、大野区の皆様方のいろんなお考え、また、いろんな思いがあると思うわけでございますが、これについては3月29日出した広報だけではなくて、私は今そのような気持ちでありますので、全体的につきまして大野区の皆様方とのまた連携をとりながら、また協議をしながら、これ

については取り組んでいきたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉川議員。

4番（吉川慶一君）

概略お聞きいたしましたし、市長のお気持ちもお聞きしましたので、ぜひ早急の解決をお願い申し上げます。私は全般にお聞きしましたので、今回のご質問を終わりたいと思います。

詳細については、また次回にお伺いいたします。今回はありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

昼食時限のために13時まで休憩をします。

午後0時04分 休憩

午後1時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開します。

引き続き、笠原幸江議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。〔1番 笠原幸江君登壇〕

1番（笠原幸江君）

清生クラブの笠原幸江です。

事前に提出いたしました一般質問発言通告書に基づき、市長にお伺いいたします。

1、市長公約について。

3期目の公約で米田市長は、筆頭に交流人口拡大を掲げ、今後、4年間で20万人の増加を目標とする数値の明言をされました。勇気ある数値化の決断の背景に平成27年の春の新幹線開業と、糸魚川ジオパークを核としたビジネスチャンスと捉えてのことと存じますが、そのことは市民と行政が総合力でスピードを上げ、取り組まなければなりません。なぜならば、「食べる・観る・体験する（遊ぶ）・泊まる」と滞在型観光ひとつとっても、これからが正念場と考えるからです。行政の動きと市民の感じ方にまだまだ隔たりがあります。市民が日々の生活に豊かさを実感するために、私の提案も含め、以下6項目について具体的に市長に伺います。

- (1) 4年間で20万人の増加目標の分析をどのように捉えているか。
- (2) 観光交流人口の入込数の傾向はどのようになっているか。
- (3) 近隣市町村による（仮称）北アルプス日本海広域観光連携会議の取り組みについて。
- (4) 親不知ピアパーク内にある、ふるさと体験館の活用はどのようになっているか。
- (5) 小滝ヒスイ峡周辺整備についての考え方について。

(6) フォッサマグナミュージアムを教育委員会から市長部局へ配置転換できないか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、入り込み客数は増加傾向にあり、新幹線系魚川駅開業に向けてジオパーク戦略プランを進めることにより、目的は達成できるものと考えております。

3点目につきましては、新幹線系魚川駅開業がもたらすさまざまな効果を生かして、交流人口の拡大に向け大系線及び北陸本線沿線の市町村と広域的な観光連携を図っていききたいものでありまして、8月上旬の設立に向けて準備を進めております。

4点目につきましては、現在、ジオパークの広報と指定管理者の自主事業で活用いたしております。また、観光協会が観光案内所を開設し、情報の提供に努めております。

5点目につきましては、国、県の関係機関や地元と連携を図り、学習護岸などを整備してまいりたいと考えております。

6点目につきましては、現時点ではフォッサマグナミュージアムは教育機関として位置づけております。ジオパークの核施設であります。ジオパーク活動は広範囲であることから、ご提案につきましては今後検討してまいりたいと考えます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

2回目の質問に入らせていただきます。

1番目の質問なんです。1回目の質問でもさせていただきましたが、数値化の市長の勇気ある決断は市民にとってもわかりやすく、説明する上で大変重要なことです。数値の目標は正確さゆえに、達成できなければ言い逃れができない、もろ刃のやいばとなり得るからです。数字のお約束は、極めて重いと言われております。その重い裏づけに基づき決断されたかと存じます。感じる思いでなく、極めて重い裏づけをもう一度聞かせてください。

実は私も仕事を通して1カ月幾ら売り上げるか、1年でどれだけ売り上げるか、ノルマを達成させるのに一生懸命向かって挑戦してきました経験もあります。そのご苦労は理解しているところがございます。全く他人事ではありません。ともに達成したいがゆえに、今回提案させていただくことといたしました。お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、180万人に達しておるわけでございまして、あと20万人、今の伸びからいくと簡単になりそうではありますが、今、議員ご指摘のように一生懸命やってきて、ようやくそこに到達いたしたわけでありまして。同じ率でいくとは限っていないと思っております。

そういう中で我々は今、行政の中でジオパーク戦略プランの中でその辺の進め方を検討しながら、糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトを立ち上げております。

それは大きく分けて、誘致拡大・情報発信プロジェクト、また、受け入れ体制整備プロジェクト、そしてまた、鉄道を利用した交流人口拡大プロジェクト、その3つをしっかりと運営、また、活動することが、それにつなげていけると私は考えて、その20万人の交流人口拡大を進めていきたいと考える次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

今、市長がおっしゃられましたジオパーク戦略プロジェクト、このジオパーク戦略プロジェクトは庁内挙げてどのような課からメンバーを抽出していらっしゃるか。あと市民の方も参加されてるか、お聞きしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

ジオパーク戦略プロジェクトについては、庁内の各課から担当者を選出していただき組織しております。これについては市の事業の検討ということで、市民については入っておりません。基本的に、各課から何らかの形で出てきていただくような形で、組織のほうはつくっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

庁内のプロジェクトということなんですが、そのプロジェクトで積み上げたものを市民にどのように周知していくのか、そこの部分。庁内だけじゃなくて市民にも対して、どのように戦略的に広報などやっていくのか、お聞きしたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

成果の市民への公表でございますけれども、昨年度でいいますと24年度の取り組みの成果につ

きまして、本年度に入りましてからジオパーク推進協議会におきまして、その成果についてご報告
 させていただいたとこでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

まだまだ市民のほうの周知というのは、ジオパーク推進協議会等で今連絡されてるとい
 うんです。というのは、実は皆さんもご存じだと思うんですけども海望公園、あそこ
 にシーサイドラインという展望台があるんですね。駅から300メートルで、当駅に
 立ち寄った方は待ち時間、あるいはちょっと海を見たいなというときに、そこへ行
 こうかなということで行った場合ですね、実は、あれ平成15年5月15日に施工
 されておまして、地下道の中に掲示板があるんですが、あそこ
 の掲示は鍵がかかってどうにもならない。どこがその担当課なのかわからないん
 ですが、平成16年11月12日付の地方新聞、まだ張ってあるんですよ、16年
 ですよ。平成16年12月12日付の新聞が張ってあったり、栄えてありがたや
 通り、白馬通り、駅前ヒスイロード、姫の国とか、さまざまな掲示はされてい
 るんですけども、古くなっておりまして、それを取りかえようにもどうにも
 ならず、先日……。やはり交流人口拡大ということなんですから、そういうところ
 にも少し目を通していただいて、結構リュックを背負った人とか、そういう方た
 ちが多くお見えになってます。夕方など行くと、結構夕日のきれいなところ利
 用してるんですが、どこに管理を任せているのか、お聞きしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

大町の展望台でございますけども、担当は建設課であります。それで、その古い
 掲示板があるんですけども、直ちに点検して、撤去したいというふうに考
 えておりますし、管理のほうは大町の民間の方に、ちょっと名前忘れまし
 けども、団体に委託をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

実は私も何とかあそこをしなきゃいけないということで、鍵がかかってるから
 どうにもならず、気がついたら新しいパンフレットとか観光用のジオパーク、
 今、ヒスイ海岸とか、ああいうのを張ろうかなと思ってても手が出なくて、
 そのままにして今回この席上でお聞きしたんですが、早急に対応していただ
 けるかどうか、もう一度すみませんが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

大変申しわけありませんでした。大至急点検いたしまして、対処したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1 番（笠原幸江君）

よろしく願いいたします。大変な観光スポットなので、あそこも本当に駅に近いし、駅舎ももう出てきました。駅から300メートルというのは魅力的なところなので、よろしく願いいたします。

2番目の観光交流人口の入り込み数の話をさせていただきますが、交流人口拡大の中でも当市の経済、やはり交流人口を拡大することによって、当市の経済効果も、もちろん見込めると思います。しっかりともう増加しなければ、まちの中もにぎわいが消えてしまいますし、地域の商業施設、そういう人たちも大変今、苦しい状態でございますのでね。増加傾向にある、微量ではありますけどというお返事いただいているんですけど、具体的に増加するために、入り込み数を取り込むために、どのようなことを今やられておるか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

先ほども市長のほうから説明あったと思いますけれども、糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト、こちらについては先ほど市長が言った情報発信・誘致拡大のプロジェクト、それから受け入れ体制整備のプロジェクト、3番目に鉄道を利用した交流人口拡大のプロジェクトということで、3つの大きな柱。それからその下に、それぞれ戦略1から3ということで戦略を持っております。さらに、その戦略の下に各担当課が行う事業ということで、例えば情報発信、誘致拡大のプロジェクトの戦略1ということで、糸魚川のイメージアップ・コンテンツの創出という中では、フォトコンテストとか、放送局との連携ということでチームエコの取り組み、それから、いわゆる新聞社等へのメディアへの露出の増加ということで、全庁を挙げてこういうような形で取り組んで、交流人口の拡大を図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1 番（笠原幸江君）

先ほどもお願い、市民の参画というのは入れることはできませんでしょうかね。その戦略の1とか2とか3とかがありますが、その部分でちょっと市民参加、そういうものを少し加えていただければ、市民と行政と一緒にあってジオパークを核とした、自分たちも一緒にできるというようなものにするには不可能でしょうか。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今やってるのは市内の方向性でありまして、その1つ1つが、やはり住民の皆様方と一緒に進めております。ですから今どれをとってというと、その1つに対しては、こっちの皆様方とやってるし、こっちの事業はというと、また違った観点で加わっていただいたり、また、市民の皆様方が中心になってやってるやつも、今、その我々の事業の中で支援なり協力をしていこうという形の中で、その辺を市内で行っていることを全部網羅しながらさせていただいております。でありますから、それで全て行政がやるということではございませんので、今たまたまどういう方向でいくかということの中で、ご説明させていただきました。個々に、もし例えば細かい1つの事業の中で質問いただければ、それにお答えさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

教育体験交流人口、それから滞在型、要するに着地。交流人口が拡大しても着地型、ここ糸魚川に足をとめていただいて、糸魚川の中で泊まっていただく、食べていただく、見て遊んでもらうということで、今現在、私、23年度の事業報告を見たときに教育体験交流人口という数字が出てたんですが、いま一度、どれくらい教育体験交流人口が糸魚川で定着してるのか、それをちょっとお聞きしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

現在、当市が進めている教育の関係という中では、一番大きなのはやはり聖学院との交流ということで、ことしも既に来ておりまして、160人の生徒さんが3泊4日という形で来ていただいております。そのほかにも昨年度の学芸員が対応した修学旅行、体験旅行の件数ということで、32件対応しております。人数的には開成中学校の17人とか、浦和第一女子の65人とか、慶応義塾の87人、長野日本大学の258人、慶応義塾高校の237人というような形になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

お子さんたちがおいでになったときに1つ提案なんです、糸魚川で皆さんももう既にゆるキャラのブラック番長、大分活躍してらっしゃって、そういう体験でおいでになったお子さんたちにも、ブラック番長のキャラクターを一緒にお見せするというか、参加して宣伝するというようなことはできないものか。本当に一生懸命頑張っていらっしゃって、ブラック焼きそばのブラック番長は新しい車も整備されて、本当にユニークな感じなんで、あのキャラをもう少し利用するという方法は

ないんでしょうか。

というのは、先日、姫川港40周年の記念トーク、川合俊一さんと伊藤聡子さんも話されてましたんですが、地域からああいうものを盛り上げていかないと、熊本のくまモンとか、ああいうのはやっぱり地域だそうですね。糸魚川にもそういうユニークな、悪キャラかもしれないけれども、かわいいというか、悪キャラでもブラック番長なんていうのは、おもしろいキャラクターだと思って、そういうお子さんたちがおいでになったときの何かのところに参加させるということは不可能でしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、2点あるかと思えます。1点目は、体験学習だとか修学旅行の関係でございますが、これにつきましては、やはり学校の活動の延長上の中にあるわけございまして、そういったものをどうやってお示しするかということでございまして、昨年の秋には東京都内の校長先生が30人弱おいでいただきまして、いろいろ糸魚川のこの資源を見ていただきました。それはジオパークを核とした我々の学習する場として、また、それで体験学習やいろんな面で使っていただきたいという提案をさせていただきます。非常に自然が豊富で海あり、山あり、川あり、そんなものは全国どこにもあるんだという中で我々は何を提供できるかということで、ジオパークをやはり教育の中でお示しさせていただきたいということにさせていただいたところ、非常に好評でありました。しかし、それをどこまでつなげるかというのは、まだわかりません。

また今、ゆるキャラにつきましては、当然、これはやはり我々の地域の資源であり、特にブラック番長は非常に評判でございますので、そういったものを中心に楽しんでいただける方々を大きく取り込みたいために、いろんな面で使わせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

3番目に入ります。

（仮称）北アルプス日本海広域観光連携会議ですが、先ほど8月とおっしゃってたんですが、まだ本格的に事務レベルでお話をされてるってことはないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

4月末に、うちの市長が各市町村を訪問しまして、この設立について提案をしております。その後、規約や活動方針、そういったものの原案を詰めて、今、事務レベルでの最終の詰めに入っておりますので、今後早い時期に、8月上旬という目標をもって、設立のほうを進めていきたいと考え

ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

北アルプス日本海ということなんですが、新聞等でちょっとお見受けしたんですが、大町、白馬、小谷村、朝日町、その4つで上越市は入っていないんでしょうか、ちょっと確認で申しわけないんですけど、含むということによろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

上越市も加盟の方向で考えておりますが、ただ、上越市には上越妙高駅がありますので、いわゆる北陸沿線の部分加入というような、そういう形で進めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

まさに新幹線開業、それからジオパークを核とした富山県、長野県、本当に重要なものだと私もそう思います。しっかりと連携をとって、交流人口拡大に向けて取り組んでほしいと思います。

その中に、今、事務レベルということなんですが、私、提案させていただきたいんですが、今どいう位置で取り組んでいるかはわからないんですが、教えていただくとありがたいんですが、要望としては係長さんクラスの方をたくさん入れていただいて最初からその責任を、係長さんが長年取り組んで、その成果を見届けるぐらいなところまで一緒にやっていただくのが、私は一番いいと思ってるんですが、ちょっとこれは唐突で申しわけないんですが、そういう考えというのはないもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

現在進めております協議というのは、設立に向けた協議になっております。事務レベルの担当者としては課長さんを中心に、協議のほうを進めております。

ただ、正式に連携会議が設立した後、それはやはり今度実際の動く担当者レベルの専門委員会的なものをつくって、時間的に非常に短い間でいろんな事業をやっていかなきゃいけないと思ってますので、そういった中で動きの軽い、そういう組織をつくっていきいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1 番（笠原幸江君）

ということは、考えてくださるということで理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど答弁させていただいてるように、新幹線の糸魚川駅を生かしたやはり交流人口の拡大ということでございまして、大枠目的は大体わかる部分であろうと思うわけでございまして、その辺の誘客数につなげる活動ということになるわけでありますので、係長だろうが、課長だろうが、普通の職員だろうがそれは関係なくして、一生懸命取り組んでいただく職員を充てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1 番（笠原幸江君）

よくわかりました。行動力のある職員、どなたでも私もいいと思います。やる気のある、ノルマをかけてもしっかりそれを達成できるような、活力ある人たちを選挙してやっていただければ、本当に希望が持てる答弁で安心いたしました。

なかなか大糸線というのは難しいんで、そのところに日を当てていただければ、大町市も小谷さんも、白馬さんも、本当に新幹線を待ち望んでおりますので、そこにジオパークが入ってくるといことでありますので、自信を持って糸魚川市のPRをして誘客、要するに交流人口をふやしていただければありがたいと思っております。よろしくお願いします。

次は、4 番目の質問に入らせていただきます。

親不知ピアパーク内にあるふるさと館について、ちょっとお聞かせ願いたいんですが、ここは青海地域でも観光の拠点であります。西の玄関口で、ジオサイトの1つピアパークは、観光交流人口に適した場所であると考えます。ここはコンパクトです。食べる、見る、遊ぶ、体験する、泊まるというのが、この地域で一気に行ける本当にコンパクトなところなんです。周遊できて、ストーリー性があります。山姥の里から親不知の天険、さまざまなそこに歴史や文化もありますので、何とかピアパークを活気づけていただきたいという思いから今回質問させていただきました。

ふるさと体験館は、観光協会青海支部のいわゆるインフォメーションというところが入っていて、そのほかに体験館の中で何か体験か何か。私、お見受けしたところでは、ジオパーク推進室のこういうパネル展示だけがどんとして、テーブルが置いてあって、これだけでちょっと寂しい思いして帰ってきたんですが、まず、インフォメーションのほうは後で質問しますが、ここを何か計画ありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

山岸青海事務所長。〔青海事務所長 山岸寿代君登壇〕

青海事務所長（山岸寿代君）

お答えいたします。

今、昨年の実績でいきますと、観光案内といたしまして、ピアパーク内の説明や親不知ジオサイト、市内のジオサイトなどを行っています。あとは石の鑑定等についてもヒスイふるさと館で、ヒスイかどうかの判定は行っております。あと入り込み数の調査も行っております。

今後、またどのように活用していくかというのは、現在の指定管理者の方と協議してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

この体験館の中で24年度はどうでした、そこで何かやった……。記憶があれなんですけど、わんぱく何かスイミングさんとかっていう、そういう行事もやってるって話は聞いたんですけど、その24年度の実績というのは、どのようになってますか。それと、ことしもそれが繰り返されて、またおいでになるのか、ちょっとお聞かせ願いたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

山岸青海事務所長。〔青海事務所長 山岸寿代君登壇〕

青海事務所長（山岸寿代君）

お答えいたします。

24年度の実績につきましては、地元陶芸家による作品を常時展示しています。あと、また先ほど言いましたわんぱくスイミングで陶芸教室を開催いたしまして、県外の小学生120名に参加していただきました。

失礼いたしました。今年度も一応予定はしているんですけど、まだ確定ではございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

このふるさと体験館は、ピアパークの目玉であります。あそこに人が集まることによって滞在時間を長くしたり、あるいは、すぐ目の前が海でするので石を拾ったり、そこで鑑定してもらったり、何かそこでその石を見て、こんな石はどうなんだろうって子供たちがわくわくするような、そして親御さんも一緒になって、石は水の中にあるときれいなんですけど、乾くと本当に普通の石という、その変化が一気にその場所で体験できる場所なんです。

今、指定管理者になってるっていう話なんですけれども、指定管理者、その方に市としては、こういうのをやってほしいですねとか、こういうのは企画どうでしょうかという、指導というか提案

とか、そういうのはできるもんなんですか。指定管理者になっちゃったら、もうその人たちにお任せっきりで、市はもうとても口が出せないのか、そこをちょっと確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

山岸青海事務所長。〔青海事務所長 山岸寿代君登壇〕

青海事務所長（山岸寿代君）

お答えいたします。

アドバイスすることは可能です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただきます。

今、指定管理者は、そのエリアの範囲は、今の現状の中でお願いいたしておるわけでありまして、以前から比べて情報発信はできるようになるとるわけですが、限られた面積、限られた枠の中でやっとなるわけですが、なかなかその利活用というのは非常に難しいところがあります。そのようなことで、ご指摘のとおり、今、生きてないと感じております。やはりそれをどのように活用するかというのは、非常に大きな事柄であると思っております、そのやはり生かし方によっては、ピアパークの大きな入り込み客の施設になっていくんだろうと思っております。

また、今、その親不知エリアにおいて親不知ジオサイトは、やはりまだまだいろんな面で魅力づくりが必要であるわけでありまして、天険にいたしましても、あれだけでは少し物足りない部分があって、いろんなものを考えてるわけですが、その辺とどういふふうに連携していくかということも大事になってるわけでありまして、ご指摘の点については、やはりどのように生かしていくか。これは一番そこでもって指定管理者の皆様がおられるわけですので、その意見を聞きながら、またしっかりとジオパークの情報を発信したり、いろんな面に使えるように考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

本当に市長がおっしゃるとおりなんですよ。青海の目玉、あそこがピアパークなんです。西の玄関口で、本当に多いんですよ、入り込み数は。私も大好きな場所でよく行きます。だけどこの空間が閉まると、皆さん、トイレ休憩だけで帰っちゃうんですよ。ここでお客様をつかまえて楽しんでいただいて、そこから先ほども言いましたけれども、親不知天下の険、親不知・子不知、山姥の里、本当に文化が、「遊女も寝たり萩と月」の市振方面、それがここが中心になって宣伝していただかないと、青海の観光、青海のまち自体がだめになっていくし、糸魚川としては西の玄関口なんで、ぜひここをにぎやかしていただきたい。

指定管理者でアドバイスすることはできると言いましたが、私も少し指定管理者の考え方が、指定管理者にすれば、何か民間に委託すれば活気が出てくるなというイメージを持ってたんですが、少しその考えが後退してしましまして、ぜひこここのところを活気あるものにして、そうすると周りの商業施設が全部、お客様が入ってくださるんですね。だから新しい物産も生まれるでしょうし、ここに来て、ここでしか食べられないものも生まれてくるだろうし、そういうものを取り組んでもらいたい。

これも私の提案なんですけれども、指定管理者そのものにちょっと疑問が出てまいりましたから、あそこのふるさと体験館だけを、今、指定管理者になってるところを切り離して、何かそこで公募をかけていただいて、本当にそこに自信持ってノルマをかけて、入り込み数は必ずこれだけを入れなさいとか、そういうふうにして今やっていかないと、本当に市長が掲げている20万人の交流人口拡大、イコール市内の商業施設が豊かになるということにもっていかないと、ただ絵に描いた餅になってしまつては大変残念な結果になってしまいますので、ぜひ条件をつけて民間の力を活用して、体験メニューの計画だとか、入り込み数の提示だとか、必ず拾った石は鑑定するとか、あとは場所提供して使用料をいただくとか、観光案内と機能を一緒にして、そこで広がっていくというような体制につくり上げていただきたいと思うんですけれども、いかがですか、市長、無理ですかね、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

無理ですかねと言われますと、今、即それをそのまま織り込むということは無理だと思います。

やはり今まで長い間、いろいろなことをやってまいりました。しかし、なかなか難しく、どれに活用するかというのは、なかなか見出せなかったわけでありまして、今、いろいろご指摘いただいている点、本当に我々といたしましても大切な場所と捉えてるわけでありまして、どのようにしていくか、やはり即、簡単に食べ物の情報発信の場とか、またそういった、今、インフォメーションだけで終始できるかというのも即答できませんが、それを生かしていきたいと、活用していきたいという気持ちはお答えさせていただいて、検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

インフォメーションなんですけど、インフォメーションも一緒に、ふるさと体験館の中にあるんですが、あそこはだんだん予算が削られまして、調べましたら今、お1人の方がいらっしゃるんですけども、なかなか1人ではお休みもとれなくて、大変な思いしてらっしゃると思うんですね。

だからもう少し観光に力を入れるということなんですから、今の状態だと観光と交流人口拡大の逆にいってるような状態だと思うんですね。観光客が来て、いろんなお話を聞こうとしたときに、あそこが生きてこないといけないところに行ける説明、そういうものがしっかりと入っていかないと、

本当に政策は交流人口拡大なんだけど、実際やってるあの場所から見ると、その逆をいってるような感じがします。そこをまず活気あるものにしてもらいたいんですけど、いかがですか。

本当にインフォメーションも充実したものにしなければいけないし、ふるさと体験館の体験のことも充実しなきゃいけないのでぜひ取り組んで、先ほど無理だとおっしゃったんですが、進んでそこを考えていただくとありがたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、この交流人口拡大の中において、観光協会の皆様方の力というのは非常に大きいものがあるわけでありまして、ご存じのように合併前の観光協会、3地域に市町があったわけですが、それを早めて合併をさせていただいて、そしてさらになおかつ目標を立てて活動する方向に、今、戻させていただいております。そういう中で、その辺をしっかりと位置づけしていきたいと思っております。

これはピアパークだけではありませんで、マリンドリームもあったり、また、糸魚川の新幹線駅舎、また、観光の情報発信をこのヒスイ王国館などいろいろあるわけでございますので、そういったのをトータル的に考えた中で進めさせていただきたいという考えでございますので、予算さえあればいいということではないかもしれませんが、当然、予算も伴うわけでございますので、そういったところもあわせながら検討をしていただき、しっかりした目標を立てて進めていきたいという話を、今、させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

5番目の小滝ヒスイ峡について、考え方をちょっと教えていただきたいんですが、先日、小滝のヒスイ峡へ行ってまいりました、5月の連休です。実は瀬野田、林道入山線と言ったほうが、皆さんは専門的でわかるかと思うんですが、こういう状態で交通止めになってます。これヒスイ峡のほうから撮った写真です。こちらのほうは瀬野田のほうから、ただ交通止めだけでした。これだといつから開通するのか、いつになったら通れるのか、ちょっと不親切ですよ。当日すごく観光客の、要するに県外車の車がとっても多くて、1時間ぐらいい間にメモしてたところだと、京都、静岡、浜松、春日部、名古屋、横浜、群馬、酒田、川崎、川越、会津、品川、松本、長野とすごい車が入ってるんですよ。でも、みんなこれ行けないんです。これいつになったら開通するんですか、通れるようになるんですか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

林道入山線につきましては落石防護用のネットが、ことしの春先の融雪に伴いまして崩壊をいたしました。そのために、今、交通止めにさせていただいたところでございます。議員言われますように5月の連休のころには、そのような案内しか申し上げておりませんでしたけども、その後、やはり地区からのいろんな状況もお聞きしますし、私どもも現場を見てまいりました。ヒスイ峡へ行くには、高浪の池経由でも行けますよという案内を、しばらく前に案内板を出させていただきました。

交通止めの解除でございますけども、壊れました落石の防護ネットにつきましては、今、工事業者のほうで現場で修復作業をしておりますして、7月10日ごろまでには終わらせたいということで、市のホームページのほうにも開通の見通しも出させてもらっておるわけでありまして、できるだけその目標の開通日よりも努力をいたしまして、早く開通するようにしたいというふうに取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

7月10日というお話だったんですが、やはりここには何日から何日まで、何のために、今、通行止めになってますよということは、やはりはっきりさせたほうが、リピーターさん呼び込みたいわけなんだし、今なんて旬なんですよ、高浪の池は。瀬野田のほうを通るのは、これ防護はもう何年目ですか、毎年このようなことを繰り返していらっしゃいますか、お聞きしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ことし修復の作業をいたしております落石の防護ネットにつきましては、一昨年に設置したものでございます。その前からも落石の防護ネットは設置をする工事をしてきておりました。修復によりますことの工事のために、片側交互通行、全面交通止め等で、いろいろと利用者の皆さんにはご迷惑をかけてるところでございますけども、できるだけ工事短期間で、特に、土曜・日曜は片交でなるべく通れるようにというふうな工夫はしておるところでありますけども、基本的には安全を第一に全面止めで、工事期間をなるべく最短で抑えるように、今、現場対応しとるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

これもそうなんですね、これも通行止めの案内なんですね。複雑過ぎて、お知らせ、しばらくの間、通行止めって書いて、迂回路するようには、高浪の池のほう回りなさい。これは本当12日の日に行ってきました。8月13日まで片側通行で、6月14日まで通行止めってなってるんですね、きょうなんですね。あしたから片側通行になるということなんですが、やはり旬なところには旬の

開通を、もう毎年なんだから、やはり5月は大勢観光客も来ます。ぜひあそこを通るように、市長、いかがですか。あそこは本当にジオパークのヒスイ峡なんです。ヒスイ峡を宣伝するって言うのにこんな状態では、交流人口拡大にならないですよ、ぜひお願いしたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も全くそのとおりに思っておるわけでありまして、しかし、人が多く来れば来るほど、やはり安全を守っていかなくちゃいけない、安全にしくちゃいけないと思ってるわけでありまして、急斜面の非常に高いところに山が位置づけられとるわけございまして、毎年の融雪時の落雪というのは非常に危険でございますので、それはしっかりやっていきたいと思っております。

そのようなことで、これからはどのようにまた皆様方に説明をさせていただくか、やはり安全には向こうですよ、こちらはやはり危険も伴うのでもう少し時間がかかる、また、整備をさせていただきたいという説明をしなくちゃいけないと思うわけでありまして、ちょうどオフになる冬期間、工事ができればいいんですが、危険でとても入れません。やはり雪消えと同時に工事に入るわけでありまして、いましばらくはやはり続くと思っております。

しかし、世界のジオパークの中では危険なところがいっぱいあるわけでありまして。だからといって我々は安全を無視してやるわけにはいきませんが、そういったことで遠回り、そして少し時間がかかるかもしれませんが、やはりそういったことも必要でなかろうかと思ってるわけでありまして。これは1つの例かもしれませんが、世界ジオパークのベトナムのドンバンジオパークでは、施設まで行くのに12時間も13時間もかかるところもあるわけございまして、やはりそういったところは大地のいろんなものを理解していただく上で、おいでいただきたいということに変えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

それじゃ、まずこの通行止めのこの部分に、しっかりと書きましょよ、いつからいつまで、何のため、これは基本だと思ふんですよね。そうしないとせっかくおいでになった方が、またリピーターで来たいな。ああ、そうだ、そういえばあそこは何日までだめだったんだ、じゃあこの次のときは来れるなとかって。これしばらくの間とか当分の間っていうのは、行政用語で何年たってもしばらくなんですよ、ぜひそういうところは直しませんか。本当に不親切です、本当に不親切、ぜひお願いしたいんですけど、お約束していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに説明不足のところがあったということで、これからはそういうことがないようにしていきたいわけですが、しかし、調査してる段階では、まだいつまでというのはわからない部分がございますので、そういう出し方、そしてはっきりわかって工事に入って、いつ完了ができるというのがわかれば、そういった形の中で出していきたいわけですが、ですから全て止めたら、すぐいつ何日解除できるかというのはなかなか、一律にせえというのはちょっと無理なところもございますので、そういったところもご理解いただく中で、させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

市長、ここの工事期間中は、どなたかにお願いするわけでしょう。工事屋さんとか、何か建設屋さんとか。その人たちは、この案件はこれぐらいかかるだろうな、これぐらいお金が要るだろうなというそういう見積もりみたいな、そういう工事施工日程表みたいなものっていうのは、とらないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

再度お答えをさせていただきます。

ですから調べてる間は、いつ何日というのは出せないの、見積もりしながら、調査しながら、はっきり決まったときにはそういったいつまでに、今回の工事はこれぐらいかかるでしょうというものは出てくるわけでございますので、そういったときに明示できるということで、先ほどお答えさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

施工業者等をお願いするときには、やはりそういうところも踏まえてやっていただくと本当に助かりますね。もうできないものはできないということでいいんですが、ぜひお願いしたいと思いません。

本当にフォッサマグナミュージアムに行って、それからフォッサマグナパークに行って、それから小滝のヒスイ峡、このラインというのは、これからでき上がる北アルプス日本海広域観光連携会議の、その1つの目玉にもなるラインです。本当に魅力的な場所です。高浪の池、フィッシングパーク、それから展望台、明星山、それからフォトスポットのところも行く、本当に5月は新緑もとってもきれいです。残雪もあります。自信を持って宣伝できる観光の1つだと思いますので、よ

るしくお願いしたいと思います。

最後になりますが、フォッサマグナミュージアム、これについて質問させていただきたいんですが、今までは教育委員会所属だったんですが、教育委員会が悪いということじゃないですよ、今までずっと教育委員会の中にあっただけですけども、フォッサマグナミュージアムは平成6年4月に、観光と文化振興を目的にオープンしたもので、19年のもう時を経ております。当市のジオパークの核として、糸魚川ジオパークが世界に認められ、その成果をつないでおります。当時の市長さんの思い切った決断と、今、米田市長の勇気ある数値化を掲げた決断で、さらに向上させなければ、ちょうどその転換期に来てるんじゃないかと思うんですね。

本当に教育委員会にあるのが悪いということじゃないんですけども、今、世界ジオパークで、私たちが一生懸命やろうとしたときに予算だとか、あるいは即効性、スピード、そういうときに、やはり市長部局に置くのが一番スムーズに行くのではないかという考えです。交流人口拡大です。世界に向けてジオパークを発信するにも大事なことだと思うんですが、市長、いかがでしょうか。検討ということをおっしゃいました。議会で検討というのは、やらないんだよと言われてるんで、ぜひ前向きに考えていただくということではできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

教育委員会部局に置くとスピードがなく、市長部局に置くとスピードがあるというような言い方をされますが、しかし一部リニューアルするときには、物すごい早いスピードであそこを広げておる経過がありますし、トイレも整備をさせていただいております。でありますから、どこに置いたからいい悪いじゃないと思うわけでありまして、1回目の答弁でもお答えさせていただいたように、非常に今、このジオパークの核施設という形になつてくるわけでありまして、そしてジオパーク活動は非常に広範囲に及ぶものでございますので、そういったことを考えたときにやはりやらないという検討の中で私は答えとったつもりはございません。検討した中でも、やるものもあれば、やらないものも検討した中では出てくるわけでありまして、私は、今、議員ご指摘のように、前向きでという言い方をさせていただきましたが、私も前向きで捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

ありがとうございます。

交流観光課の中に、ジオパーク推進室とかジオパーク協議会やジオパーク市民の会などが所属していらっしゃるって、パンフレットだとか、あるいは看板だとか一生懸命整備されて本当にきれいになりました、看板もきれいになりました。ジオパークで統一された色で本当によくなっているんですが、まとめですが、どうか前向きに取り組んでいただければありがたいと思っております。

ちょうど合併からもう9年目です。米田市長、第3ステージのスタートだということをおっしゃって

おりまして、市長はこれまでの取り組みをいま一度見直して、課題を整理し再確認して、事業をリメイクする必要があると考えておられるようなんですが、限られた財源の中で、今こそ選択と集中、発想の転換、効率のよいものにしていただいて、市長のリーダーシップをこの3期目に、ぜひ出していただきたいと思っております。これも皆、北陸新幹線開業を見据えて、あるいは交流人口を拡大することによって、市民の生活が本当に潤いを感じられるようにしていただければいいと思っておりますので、最後に一度、その勇気ある決断の気持ちを、市長、よろしく願います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり私も3期目にもう突入したわけでございますので、当選させていただいて以来、積極的に行動させていただいております。また、いろんな面で、今、私もお約束をさせていただいた分がございますので、それに対して、今、真正面に取り組まさせていただいております。なるべく早目に、そして私といたしましては、4年しかないという感覚の中で、今、進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

笠原議員。

1番（笠原幸江君）

これで一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で笠原議員の質問が終わりました。

ここで14時10分まで休憩をします。

暫時休憩いたします。

午後2時00分 休憩

午後2時10分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂 悟議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき 1 回目の質問を行います。

1、保育事業について。

(1) 保育園の入園について。

入園基準を満たしていない方や定員オーバー等で入園を断った方への対応はどのようにしているか。

現行の保育サービスを有効に活用していただくために保育園コンシェルジュ（相談員）の設置はどうか。

利用希望者が多い保育園の定員を増員してはどうか。

(2) 系魚川市次世代育成支援後期行動計画について。

「保育の見直し」について進捗状況はどうか。

策定から丸3年経過しましたが、新たな見直し項目はあるか。

(3) 森の中で遊ばせて成長させる「森の幼稚園」のような特徴のある「ジオ保育園」を新設してはどうか。

2、交通弱者（買い物弱者）の支援について。

(1) お出かけパス券・タクシー券の利用状況と効果はどうか。

(2) コミュニティバスと乗合タクシーの利用状況と効果はどうか。

(3) デマンドバス導入に向けての検討状況はどうか。

(4) 民間と連携し移動販売車を促進すべきと考えます。移動販売業者に補助制度を設けてはどうか。

(5) 一人暮らしや高齢者世帯では、民間の「便利屋さん」が必要になると考えております。利用者もしくはその業者に支援制度を設けてはどうか。

(6) 将来、デマンドバスや買い物支援を円滑にするため、高齢者向けにスマートフォンの普及はどうか。

(7) 市内のタクシー会社とバス会社を買い取り、ジオ観光と生活福祉と遠距離通学等をサポートできる交通公社を立ち上げてはどうか。

(8) 各公民館に、仮称ではありますが、地域生活支援センターを併設し、高齢者の交通支援や買い物支援ができる拠点にしてはどうか。

3、子育て支援について。

(1) 乳幼児の事故防止教育について。

チャイルドビジョン（幼児視野体験メガネ）の普及はどうか。

年齢に応じた事故防止教育のリーフレットの作成はどうか。

「子育てお役立ちブック」に、事故防止教育についてであります。この掲載をしてはどうか。

(2) 風しん予防接種事業について。

系魚川市の素早い事業実施を高く評価しております。今後、風しんのまん延を防ぐ観点から対象者の拡充をしてはどうか。

(3) 子ども医療費の助成制度拡充について。

平成15年の初当選以来、この制度の拡充を求め続けてきました。県内自治体の状況から、

通院の補助対象をぜひ中学校卒業までにすべきと考えておりますが、この辺はどうか。

- (4) 衆議院で「子どもの貧困対策推進法案」が可決されましたが、日本一の子どもづくりを目指す本市として、「貧困に対する学力差」や「親から子への貧困の連鎖」に対する取り組みはどうか。

4、特色ある（儲ける）まちづくりについて。

- (1) 儲ける自治体の取り組みについて。

福祉や教育を拡充するために儲ける自治体産業を興すべきと考えます。具体的には、ごみ処理場の広域処理、公立の墓園経営、民間とタイアップした図書館経営、耕作放棄地を活用したバイオエネルギー生産など、これらを研究し導入すべきと考えますがどうか。

- (2) 儲ける高齢者グループ作りについて。

高齢者による生産・加工・販売ができる体制づくりのために、各地域に加工所と高齢者育成機関を設置すべきと考えますがどうか。

- (3) 儲ける観光戦略について。

新幹線開通後に糸魚川市として観光客に売り込むものは具体的には何か。

若い女性や子ども向けの戦略はどうか。

誘客に向けた情報発信戦略はどうか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の保育事業についての質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、両方で年間4,298名の方が利用しており、効果としては外出機会がふえ、閉じこもり予防の一助となっていると考えております。

2点目につきましては、現在、6地区13路線で週に1回の運行であり、年間約4,500人の利用となっております。路線バスのない地区の皆様に、通院や買い物などに利用していただいております。

3点目につきましては、現在、運行中のコミュニティバス、乗合タクシーも1種のデマンド交通であり、いずれも路線バスに比べてコストがかかっている状況ですので、調査研究してまいりたいと考えております。

4点目につきましては、国県の補助制度があり、市内の1つの事業者が事業採択されております。市としての支援については、生活弱者全般の実態等を調査する中で、研究していきたいと考えております。

5点目、6点目、8点目につきましては、今年度は各種アンケート調査や地域のサロン、各種会議等での聞き取り、中山間地域集落みまもり隊の活動などから、地域の課題の把握に努めてまいります。

7点目につきましては、今のところ交通公社の立ち上げは考えておりません。

3番目の子育て支援についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

4番目の1点目につきましては、採算性の合う事業であれば、民間から行っていただくことが原則であると考えております。それぞれのケースが当市に適しているかどうかも含め、具体例については調査研究してまいります。

2点目につきましては、高齢者の方々が持つ昔ながらの加工技術、また、JAや森林組合などの関連機関と連携をいたしまして支援をしてまいります。

3点目の1つ目、3つ目につきましては、ジオパーク戦略プロジェクトを基本として積極的に事業展開してまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、若い女性には温泉とか食を生かした美容と健康、子どもには鉄道模型やジオラマなどで糸魚川の魅力を発信していきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、入園基準を満たしていない方には民間の幼稚園を紹介し、希望する園に入園できない方には、他の空いている園を紹介しております。

2つ目につきましては、こども課の職員で相談等の対応をしておりますので、新たに相談員の設置は考えておりません。

3つ目につきましては、入園希望者が多い旧糸魚川市内の施設について、やまのい保育園の新築や中央保育園の改修により受け入れ数を増員しております。

2点目の1つ目につきましては、休日保育の実施や学童保育実施箇所を増加するなど充実を図っております。今後は夜間保育や病後児保育等について、検討してまいります。

2つ目につきましては、毎年度、計画推進委員会において進捗状況や見直しについて協議しております。今後は子ども子育て関連3法の制定を受け、今年度に（仮称）子ども子育て会議を設置し、26年度末までに支援事業計画を策定する中で、新たな子育て支援策も組み入れていきたいと考えております。

3点目につきましては、自然に恵まれた当市の特徴を生かし、各園でジオサイトに親しむなど自然を生かし、自然に親しむ保育を取り入れておりますので、ジオ保育園の新設は考えておりません。

3番目の1点目の1つ目につきましては、子育て支援事業の中で効果的な普及啓発に努めてまいります。

2つ目につきましては、乳幼児検診時に乳児時期の事故防止に関するリーフレットを配布しており、今後も啓発に努めてまいります。

3つ目につきましては、今後、掲載に向け検討してまいります。

2点目につきましては、現段階では先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれることを防止することが目的であり、対象者の拡充は考えておりません。

3点目につきましては、実施に向け検討してまいります。

4点目につきましては、就学援助として学用品費等の必要な費用の援助を行っております。今後は法律の内容に基づき、国や県の動向を見ながら対応を検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

よろしくをお願いします。

まず、保育園の入園を断った方への対応であります。いろいろ市民の方からの話を聞いての今回の質問なんです。市民に対して入園条件を満たしていないから、空きがないから入園は無理ですとか、子どもが定員に達してるので利用できませんという説明で終わってるケースがないのでしょうか。今、子どもを預けようと思っていて預けられなくなることで、どのようなその方に支障が出てくるのか、その支障に対してどう手だてをしていくのかといったことも、やっぱり行政として親身に相談に乗っていただきたいんですけども、そういった対応については、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

基準を満たしているとかいないとかというのは、入園の案内等で明記してあるわけございまして、実際にお越しになったときには職員が対応して、この部分がどうだとかというふうな形でご説明しとるところでございます。

特に昨年度で申しますと、基準を満たしてない方でお断りした方は10人ありまして、その中の9名が求職中であるということで、その方が就職が決まり次第、順次、入園できるという取り扱いにしてありますし、1名の方は勤務時間が不足しとるということでお断りしまして、幼稚園のほうをご紹介したという例がございますし、定員オーバーで断った例でございますが、6名ほどおりましたが、それはそれぞれ別の園へ行っていただくことで、それぞれ入園しておられるということで、希望があって申し込みがあった際は、できるだけ丁寧に対応してるところでございますが、もしご指摘等がありましたら、また改善していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今お答えで、それなりの説明、対応はされてるということなんでしょうが、私がお聞きすると非常に皆さん感情的になってまして、対応が悪いというふうに伺っております。

確かに基準をよく見てこなかったという部分では3月議会でもお願いして、そういう説明を徹底してくださるようというふうにして、対応しますという回答をいただいておりますが、やはりその辺の丁寧さということで、あえて保育園の入園の希望をとって返事をする機関には、保育園のコンシェルジュという形で対応をきちんとやっていただいたほうが、より市民に親切なのではないかということで、今回あえて提案させていただきました。そういう意味での設置というのは、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

コンシェルジュ、私もちょっと調べてみましたら都会のほう、横浜とか福岡ですか、その辺はそういう相談等に応じる方ということで市の職員、臨時職員かと思いますが、そのような対応をしとるところがございまして。今、我々はこども課の職員でその対応をしております、ご指摘の点がありましたら改善する方向で、今後、引き続き職員のほうで対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

とにかく丁寧な対応というのを、お願いしたいと思います。

入園の基準のちょっと具体的な内容になるんですけども、保護者の中には出産前に仕事をやめて、出産後、就労しようとしても、今度、働く場所や条件が合わずに就労ができない。先ほども9人が求職中ってありましたけども、結果的に専業主婦となってしまって預けられない。その結果、今度は生活が苦しいという声も伺っております。それで市内の女性の就労支援についても、また保育に欠ける条件に影響が出てくるものですから、そういったところのちょっと緩和といいますか、預けられるような受け入れの幅を広げるような、そういったことはできないものかということなんです、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

専業主婦で働いてない方の保育ということになりますと、今の基準では難しいんですが、一時保育ということで、これは週3日でございますが、一時保育という形で預けることは可能でございます

す。また、民間の幼稚園でも可能でございますので、そのような方向で今お願いしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今の現状の対応ですと、ここの保育園はだめで、ほかへ行って空きがあるから入ってくださいとあってあると思うんですけども、そういうケースでやった場合に、そこに住んでおられる住所から兄弟がいる場合とか、今度はいろんなケースが出てくるかと思うんですよね。そういったときに兄弟が同じところに預けたいけども、ばらばらになってしまうようなことがあると、結局、保護者としては結果的に行かせないことが出てくると思うんですよね。そういった具体的なものに応えるためにも、その保育園の定員であるとかに対しては、ある程度、臨機応変型な対応をしていかなきゃならんと思ってるんですけど、そういったことができるのか、また研究していただきたいんですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

保育園には、各条例上の定員がございます。ただ、これは待機児童の解消という意味で、厚労省のほうでは柔軟な対応をしております。定員をオーバーしても預けられると。ただ、1人当たりの児童の年齢に応じた面積がございますので、その基準はクリアしなきゃいけません。そんなことで、今、実際に市内の保育園でも定員を超えた入所といいますか、入園をさせておるところでございます。

それと兄弟で別々になる可能性があるということ。実際、昨年も例があったんですが、その方につきましては、別々にならんような形で、同じところへ行けるように対応したという例はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

たまたまそうならなかったのは、よかったなというように思いますけど、そういう対応をしていただきたいと思います。

今度、定員を増員することについてでありますけども、やっぱり保護者の住所と保育園のある位置により、預けにくいことがあります。糸魚川市全体では、子どもの預かる定員数というのは満たしているような状況かなというふうに私も思っておりますが、やっぱりニーズのあるところに保

育園がなければ、結果的に市民のニーズに応えることにはならないと、つまり保護者にとって適正なサービスとは言えないと思うんですね。糸魚川市在住で、妊娠された時点で早期に入園の希望のアンケートをとるなり、そういう前もった準備、対応の研究とか、そういったことが必要かと思うんですが、その辺の検討、努力、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

やはり旧糸魚川市の東、やまのい、それから中央、ここがやはり一番人気といたしますが、希望が多いところでございます。特に東が多うございます。昨年、東を希望されたけども、やむなくやまのい、あるいは大和川、中央に移っていただいたケースがございます。

先ほど教育長答弁がございました。新しい子ども子育て3法ができて、今後、新たな計画づくりに入るわけですが、その中で市民のアンケート調査もございます。そんなことも含めまして、ご指摘のようなことを研究をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

あとちょっとお願いといたしますが、今回いろんな保護者からの声を聞く中で、希望者の多い保育園の入園についてなんですけど、入園者をどのように決めているのかって、公平性が保たれてるのかとかさまざまないろんな憶測が、入園されなかった方に見るとお持ちなんですね。だからそういった入園に対する入園の判断を公開して、誤解のないようにしていただきたいなというのと、あと一方で、日本一の子どもづくりということで、子育て支援に力を入れてる糸魚川市なんですけども、やはりどんどん子どもを産んでくださいと言いながら、保育園に預けられないというこの現状を見たときに、すごくショックを受けるもんですから、そういったところの公平感というか、そういったものをぜひ努力してアピールしてほしいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

1点目は断られた方でございますが、もしそのような方がいらっしゃいましたら、こども課のほうで十分な説明をさせていただきたいというふうに思っておりますし、子どもを産み育て、それから子育てということで預けられないということでございますが、やはり保育園ということになりますと、先ほど申しておりますいろんな条件がかなりある。幼稚園ですと、ほとんどないと思うんですけど、そこで今、認定こども園ですか、これが出てくるわけですが、先ほど申しました子ども子育て支援3法、この中に認定こども園の改正法もございます。非常に今度は認定こども園に対して

はハードルが下がって、設置しやすくなるということもございます。

認定こども園になりますと入所基準は、ほとんど働いてなくても入れるということになりますので、これも今、先ほど申しました計画をつくって、27年度から新しい制度が国としてスタートすることです。そんな計画の中で、それらも含めまして十分検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今ほども言っていた、その認定こども園なんですね。この次世代育成支援行動計画の中の保育の見直しの22ページの中にも、幼保一元化と認定こども園のことが書かれております。実際、今、糸魚川市で、この幼保一元化とか認定こども園に向けての進捗というのは、どのようになっているのでしょうか。

認定こども園を導入することで、現行の入園基準を緩和することにつながりますし、あと事務報告書を見ると、幼稚園の定員というのは余裕があるんですね。ここで保育園と幼稚園が一緒になることによって、あと料金の問題もあるんですけども、その辺をうまく調整をすれば、旧市街地の中でも十分子どもが受け入れられる体制がつかれるというふうに思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今、次世代育成のほうの計画の中で、幼保一元でございますが、具体的に進んでるかと言われますと、まだ進んでおらないのが現実でございます。先ほど申しますとおり、新しい法律の中で計画をつくる。その中でまた具体的に、例えば民間の幼稚園だとか、そういうところの意見等をお聞きしながら、そのような方向で進められればよいというふうに考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

何で今回、私、あえて次世代育成支援行動計画をもってきたかと言いますと、先ほど教育長も言われた夜間保育、病後児保育、今の幼保一元化、認定こども園を含めて、目標が平成26年にやろうということ書かれておるわけですね。今の答弁ですと、何か検討もされていないような答弁だったんですが、おかしくありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

やはり今申し上げる制度、この次世代育成の各項目の中で非常に難しいといいますが、ハードルの高いものでございます。夜間保育にしても病後児保育にしても非常に難しいということで、今、検討はしながらも、なかなか関係機関とも協議しとるところでございますが、非常に難しいというのが事実でございます。

ただ、26年度が目標でございますが、先ほど来申してるとおり新しい制度が27年度、国がスタートさせると、財政措置も含めてスタートするということでございますので、それに向けて次世代育成のこの計画もあわせて、進捗を図っていききたいというふうに考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今現状なかなか厳しいというのも、それは私も伺っております。ただ、やっぱり糸魚川市として日本一の子どもづくり、また、子育て支援に力を入れている糸魚川としては、やはり動きを市民にも見える形にさせていただきたいですし、また、なかなか実施に向けてできない理由があるのであれば、それもきちんとやっぱり公表したり、きょうの田原議員のフォーラムじゃありませんけれども、やはり皆さんとそういう問題点を共有しながら、やっていかんきゃいけないと思います。

このまま子どもの数が減っていったりすると、先ほどの預けたい保育園と住所との開きが出てくる場合に、横浜では土地柄できるんでしょうけども、保育園でも送迎バスというものまでも導入されてるそうなんです。だから糸魚川にとってもこの地理的な条件を考えた場合、場合によっては、そこまで踏み込んで考えていかなきゃいけないというふうに思ってるんですけど、その辺の考え方はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

その辺のことも含めまして、今度の新しい計画づくりの中で検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ぜひともよろしく願います。

次、（3）のジオ保育園についてであります。

糸魚川市は海あり山あり川あり、自然豊かで四季がはっきりしていて、山の幸、海の幸が豊富で、すごく素晴らしいところです。子どもたちを伸び伸び育てる環境として、素晴らしいところでありますので、この地元の子どもはもちろんなんですが、やっぱり市外、県外の子どもを受け入れていくような、そういう取り組みをちょっと検討していただきたいなと思うんですね。

既存の保育園みたいに、日常活動ができるのが一番いい保育園なんですが、まずは週末保育みたいな、そういう都会の子を糸魚川に受け入れていく、そういう保育園を。保育園という言い方がおかしいのかもしれないけども、幼稚園なのかもしれませんが、そういった取り組みをぜひ考えていただきたいんですが、そういうのは担当はそちらでいいのかちょっと微妙なんですが、ぜひちょっとお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

先ほどの一般質問でありました聖学院のようなああいう体験で来ていただく、修学旅行とか、その幼児版といいますか、そういうのもあってもおもしろいなというふうに考えてます。研究をしていきたいと考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

私の理想としては、そういったもので普及していったら、最終的には糸魚川で定住してもらって、こういう自然環境を、子どもを育てたいというところまで本当はもって行っていただきたいという願望があるんですけども、導入するに当たっては、まずそういうようなところからぜひ研究して、取り組んでいただければなと思います。そのためにモジオの森の公園とか、そういったものの整備も必要になってくるかと思いますが、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、2番目の交通弱者の支援についてであります。

（1）のおでかけパスとタクシー券であります。私の知る限りでは、おでかけパスは評判が大変いいです。路線バスがないところにお住まいの方や、市街地までの距離が遠い方からタクシー券の金額を上げてほしいという声があります。

そこでタクシー券の金額設定なんですけども、いま一度再検討していただいて、必要な方に少しでも金額が上がるような、ちょっとそういう値段設定の細分化といいますか、そういった努力をお願いしたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

タクシー券の1人当たりの料金につきましては、再三、単価を上げてほしいというようなご意見もいただいているところでございますが、今の段階では、現状を維持させていただきたいというふうに思っております。また、地域の方からお話を伺う中で、また改めているような困り事等、掘り出しを行いたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

そういう調査をして掘り出して、再検討していただけるでしょうけども、それは年内ということではよしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

いろいろな会合の中で、お話を聞かせていただきたいと思います。年内を目標にさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

（2）のコミュニティバス、また、乗合タクシーですけども、この事業についても大変よい取り組みをしていただいているというふうに理解しております。その集落とかの人口動向もあるんですけども、こういう利用者ニーズ、要は実際やっていただいているんですけど利用者が少ない場合とか、やってることによって本当に効果が上がるとか、そういった状況の把握とかというのは、どういうふうにして状況を把握されているのか、その辺の効果のラインというか、そういうのをどういうふうにされてるのか、ちょっとお伺いしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、いわゆるコミバスと乗合タクシーは、糸魚川では6地区の13路線ということで、それぞれ年間、これは20年の社会実験から21年から正式な形としてスタートしまして、4,500人からそのラインを推移しております。地区によってやっぱり非常に利用されている地区と、路線としては存在していますが、過去何年かはゼロという形で、ゼロの地区は経費はかかってはおりませんが、そういう中で、どういうのが効果かというと、やっぱり生活路線がなかなか組めないところの方々にとっては、非常に効果としてはあると思っておりますが、路線バスに比べると非常にやはりコストがかかりますし、同じコミュニティバスの中でも相当1人当たりにかかるコストが、その中でも

やっぱり4倍、5倍というような開きもあります。いましばらく、4年ぐらいたってありますが、もう少し見ていかなければ、どういうふうなものが効果としてというのは言いにくい形がありますので、利用人数の推移の中で見ていくべきだなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

結論から言いますと、頑張っ続けていただきたいというのが結論であります。

ただ、今言った使われているところと、使われてないところ、そういう開きがあるとか、あと高齢者が多い場合には、体の容態によっては利用したいけどもできないケースとか、いろんなことが考えられるんですね。そういったことを将来的に考えた場合に、（3）にいくんですけども、やっぱりデマンドバス方式のほうがいいんじゃないかということなんですね。近い将来、糸魚川市がデマンドバスを導入せざるを得ないんじゃないかという考えから、他の自治体の取り組みをいろいろ見たんですね。

そしたら三重県の玉城町というところでは運賃は無料として、デマンドバスというのは福祉政策として導入をしておるんですね。そのシステムというのは、東大のなんか最先端システムプログラムというのを導入しまして、要は、おじいちゃんがスマートフォンで予約を入れると、その情報がそのシステムにあって、待たないでバスの乗る場所と降りる場所が送信されて、それに対応した時間に利用できますという、そういうシステムで非常に便利がられているんですね。そういったところが全国で25カ所導入、実験をしようと。自宅から大体200メートルぐらいのところにとりまるといって設置して行っていると。ちなみに県内でも三条市で実証実験を行っているんですけども、糸魚川市はそういった情報、またはそういったことの検討みたいなものはされているのかどうか、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。（都市整備課長 金子晴彦君登壇）

都市整備課長（金子晴彦君）

県内でも三条のほうが先進地ということで視察といいますか、係員がお話を聞きに行ったりはしています。全国各地で、どこまでのコストで成功したというのは、ちょっとそこまではお聞きしてありませんが、今のところ路線バスと、それからデマンド、単なるコストの比較だけでは済みませんが、それでも1人当たりを経費で換算しますと、路線バスとデマンドでは約10倍近い開きがありますし、そういう中では、今、即デマンドというように、全てそういう先進地方式のデマンドというのは、まだなかなかそこへ移れる状況ではない。

そういう中では当市にとって、公共交通という形の生活路線というのではなくて、やはり福祉的な意味合いが非常に多いので、そういう中ではどういう形が一番実情に合って、しかも有効になるかというのは、もうしばらくといいますか、検討までない、今、市長の答弁の中では、調査研究という形の中でありますので、もうしばらく経緯を見た中で考えていきたいと、こういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

おっしゃられていることはよくわかっているんです。本当にいろんな地理的条件、また、利用する人の状態、背景、いろんなことを考えると、本当にほかの自治体でできたから糸魚川でできるかって、確かにそれもそのとおりだと思います。それで、今すぐじゃないんですね。今、このコミュニティバス、乗合タクシーを継続する中で、次の段階にいったときに、いろんな手法があるもんですから、それを研究しておいて、準備していただきたい。場合によっては今言ったように、もう福祉事業の一環だと。過疎地域、集落地域のことを考えると、無料でも買い物とか通院とか、その辺だけは対応せんきゃならんという時代になるかもしれません。30年持続可能なまちづくりということも掲げておりますし、今からそういったことを一生懸命研究していただきたいと思います。それは要望になります。

先ほど田原議員の質問の中でしたかね、きらら・玉ノ木線について、私も以前、担当課でお願いというか、要望に上がったんですが、要はスーパーがなくなって、きららまでしか来れないものを、何とかスーパーの近くまで伸ばしていただきたいという要望を上げたんですが、それが可能になったということですか。それとも、いつからできるのかということなんですが、今、協議中ということなんですか、それについてはちょっと明確にいただければなということで、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には、そういう公共交通のバスの改正というのは、公共交通会議を開催して決定するという事柄でございますが、少し伸ばすだけということもありますし、コミュニティバスということもあって、書面会議の中で意見を聞き取りして、先日、どなたの委員の方からも異議なしということをいただいておりますので、今ここで、いつ何日から伸ばすというのは、ちょっと持ち合わせておりませんが、普通であれば10月改正ですけど、そういうことではなくて、それより早い段階で、ご要望にお応えしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

本当にありがとうございます。

地域の声にスピード感をもって反応してくださるということは、本当にありがたいなと思いますし、だからといって全部が全部、いろんなところができるとは限りませんが、たまたま条件が整っていて話が進んだのかなという気もしておりますので、ぜひ少しでも利用者のサービスが向上できるように、またご努力よろしくお願いたします。

続きまして、（4）番の移動販売についてであります。

農林水産省では、スーパーなどが自宅から500メートル以上離れたところで、自動車を持たない買い物難民という、これ表現になってますけども、全国で約910万人と発表しております。65歳以上の高齢者は約350万人で高齢者が4割存在すると。

経済産業省では、買い物難民のために移動販売や宅配を手がける事業者を対象に、昨年度10億円の補助金を計上しております。先ほどもちょっと答弁あったかと思うんですが、当市ではこういう経済産業省の移動販売の補助金を使つての取り組みというのはあるんでしょうか、その辺伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

先ほど1回目の市長の答弁でご報告申し上げましたけども、市内で1事業者、これは平成24年度の国の補正予算、省庁は経済産業省の補助事業を使いまして事業採択をいただきました。

経済産業省のほうに計画を出しました内容は、買い物困難地区、計画では市内10地区を回るといふことで、それに要する移動販売車2台購入したいという内容が、事業採択をいただいたということでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

恐らく地域自立型買い物弱者対策支援事業、3次募集というのを、今、募集をかけてる。その前にされたということなんでしょうかね。ありがとうございます。そういう制度が、そういう事業者には伝わっているということがわかりましたので、それはまたそのまま続けていただければと思います。

今度は（5）番です。今度は便利屋さんの普及支援についてであります。ひとり暮らしの方にとって、電球の球のかえ方とか重いものを運ぶなど、ちょっとした作業を手伝ってもらいたいときに、この便利屋さんというのは大変有効だそうです。冬になると軒先の除雪とか、冬場の粗大ごみの処分など、一層高齢化が進む中でこういった需要が増加すると思うんですが、できましたら、こういう便利屋さんみたいなのを新規で起業される場合に支援していただくか、または高齢者がそういったサービスを受けやすいような補助というか、そういったものが必要になってくると思うんですが、その辺の考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

今の便利屋さんの関係でありますけれども、先ほどの買い物支援の関係もこの便利屋さんの件も

非常に共通点がありまして、今の高齢化する中山間の共通する悩みだというふうに思っています。

保坂議員の3月議会の一般質問でも、私のほうでお答えいたしましたけれども、大きくは買い物と通院と金融機関への、この3つがやっぱり共通の悩みとして、お住まいの方が思っておられることだというふうに思っています。

便利屋というふうに言われましたけども、まさにそういう点が、いろんな細かなことまでなかなか年を重ねると、できなくなってきているという状況でありますので、市長答弁にもありましたように、やはり地域の中で実際に声を拾っていく、課題を掘り出していくという中で、これらの点についても深めていく必要があるというふうに思っています。

今年度の中で、そういったアンケートも含めて地域にも入っていく予定にしておりますので、もう少しこの点については時間が必要だというふうに思っておりますけれども、後ほどのご質問の点も、また共通するのが幾つか出てまいりますけれども、それらも含めて今年度のまた課題にしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ちょっと順番が変わっちゃうんですけど、（8）番のほうで聞こうと思ったんですが、3月議会で郵便局さんによる買い物支援と高齢者見守りサービスの取り組みが何か検討されてるって伺ったんですが、その辺の進捗状況はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

3月のときの一般質問でお答えいたしましたが、まだその後、大きな動きはございませんけれども、糸魚川局でもそういった地域への貢献事業ということで考えていただいておりますけれども、まだ試行という段階には至っておりませんので、またその段階になれば、お答えできるというふうに思っております。検討は引き続き郵便局の中でされておりますので、よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今度（6）番のスマートフォンの普及であります。今、名古屋市では昨年9月ですかね、携帯電話会社のタブレット端末によって、買い物支援の実験事業が展開されております。内容は利用者が週2回集会所に集まり、タブレット端末からネットスーパーで注文し、翌日、自宅に商品が届けられると。ポイントは週2回集会所に利用者が集まることで、配達時の安否確認とか、皆さんの顔が見える、そういうことも含めての事業の取り組みだということなんです。今すぐじゃないんですが、将来的にこういったことの導入に向けた研究とか検討とかしていただきたいと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

そのスマートフォンの利用につきましては、いろんな利用の中で手段の1つだというふうには思っておりますけれども、まず、先ほどもお答えさせていただきましたが、地域の中で高齢の方がどんなことに困っているのか、そのあたりの掘り出しから始めたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ちょっとその掘り出しとか調査のときに気になるのが、高齢者の方にやっぱりこういうものがあるとかっていう、ある程度いろんな提案をしてどうというふうに聞いていかないと、ただ困っとるかねとか、どうだねという言い方だけだと多分、今、私がこれ提案してるのは、全部やれというわけじゃないんですね。いろんなニーズに沿って、どういう方法論があるかということ、ぜひ検討していただきたいという意味で提案させてもらっておるんで、やっぱり今現在いろんな地域で展開されているサービスとか方法論とかを把握した上で、その地域にあったものをぜひ提案していくような、そういう取り組みをぜひしていただきたいんで、その辺もちょっと加味していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次、（7）番目の交通公社の考え方であります。

行政改革の名のもとに民営化を進める傾向があります。過疎化の進む地域にとって公共交通機関しか移動手段がない方にとって、採算が合わなくなると撤退されるのではないかと、こういう不安がいつもつきまといます。系魚川市のような地形の場合、効率のよいバス運行は、正直言って見込めないというふうには私は思っております。そうであるならば市民全体で、このバス運行を考ざるを得ないと思います。

公営にすることで公共交通機関としてはもとより、福祉、医療事業、教育、学校、保育園、幼稚園事業、高齢者等の6次産業化って先ほども加工所で提案しているんですが、そういう産業面でも、観光事業といったものを、いろんなものを複合的に展開していく場合に、公営でやっていったほうが、いわゆる市の取り組みとして意向が反映され、有効に働くのではないかと、このように私は考えております。

まして観光の面でジオサイトの立地を考えると、市が積極的に取り組まなければ、このジオパークの発展というのも難しいのではないかと。また、市営にすることでこのバイオ燃料のバス運行や、電気自動車の普及につなげるなど、ただ単に採算というだけじゃなくて、いろんな市の戦略としてこういった事業が展開できるのではないかって、そういう思いで今回あえて大胆に、バスとかタクシーを買い取って市営でというふうには提案したんですが、30年持続可能なまちづくりとして、そこまで踏み込んだ考え方というのはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、公社という形でご提案いただいたわけですが、今でももう連携をさせていただけるわけですので、そういった中で我々は新たな展開かもしれませんが、やはり市民の皆様方とともに、これを連携をとりながら進めていければなとは思っております。ですから今、福祉事務所長がお答えさせていただいたように、これからの高齢化社会の中でどういったことが必要なのか、どういった今方向にあるのかというのを、もう1回しっかりと把握しようということで今させていただいて、そしてそれで今、議員がご指摘のような方向が可能なのか、また、新たな展開が必要なのか、また、今あるのをどのように連携していくのかというようにあるんな考え方ができるわけございまして、そういったためにもやはり各地域、今、確かに公民館を主体にという部分が、しっかりしていかなくちゃいけないんだろうと思ひまして、そういったところも混ぜながら取り組んでいきたいと思っております。1担当だけではなくて全課でこれに取り組んで、進めていかなくてはいけない問題だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今、市長がおっしゃっていただいたとおり、本当に所管という感覚ではなくて、糸魚川市全体にとって本当の意味での効率のよさというものを追求していただくための提案でございますので、今すぐとは言いませんが、実態に合わせた市民サービスができるようにぜひ研究して、できれば市長の任期のこの4年間で、ある程度の具体的な方向性が見えればいいかなというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

続きまして、子育て支援のほうに移ってまいります。

（1）の乳幼児の事故防止教育についてであります。

皆さん、このチャイルドビジョンというのは、ちょっと聞きなれない言葉かなと思ひまして、今回、ちょっと持ってきました。これは大人の視野ではなくて子どもの視野で、入れてみると大人は横までずっと見えるんですけども、子どもはそこまで見えないもんですから、走り出したり、車が来たりするのが見えません。そういうのを大人がまず知ってもらって家の周りとか、特に家の駐車場が一番危険なんですけど、そういう子どもの視点に立って、子どもの行動を見守っていただきたいと。

これは東京都のほうで取り組まれて、本当にちょっと厚紙でつくった紙切れのものなんで、ちょっと印刷代はかかりますけど、こっちの面を黒くしていただいてつくって、自分で手づくりできるもんなんで、こういったものを出産時とか検診のときに、ぜひ提供していただきたいんですが、その辺の取り組みはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

私もそれをつくってみました。簡単にできるものだと思います。ご指摘のようにいろんな検診時等に、それを配布という形で周知を図りたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

私もちょっと勉強不足で申しわけなかったんですが、一応、事故防止教育についてのリーフレットが配られてるって先ほど答弁あったかと思うんですが、ちょっと私の認識がなくて申しわけなかったんですが、ぜひ子育て支援ブックですかね、あれにもできれば掲載をお願いしたいんですが、その辺、再度確認のため。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

各種乳幼児健診、それでは4カ月健診、10カ月健診、いろいろあるわけですが、その際、それぞれの年齢に応じたリーフレットを配布しております。その前に妊娠期におきまして、妊産婦の方にそのようなものを配っております。

それとあわせて、今、ご質問の子育てブック、こちらにはその分が載っておりませんので、今後、内容を吟味しまして、載せる方向で検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

子育てを終わった方は、いろんな危険というのはわかるんですけども、新たに出産して子どもを育てるときに、そういった何が危険かというものをあらかじめ知っておくということが、非常に大きな事故につながらないための防止策になりますので、ぜひそういった紹介をお願いいたします。

（2）の風疹予防の接種補助制度であります。

1回目の質問でも言いましたとおり、大変糸魚川市は早い対応をしていただいて、本当にありがたいなというふうに思っております。条件も全国的な条件でやっておられることも重々承知なんですけど、6月12日付の新聞報道では、新潟県内では昨年の感染者が8人から36人となって4倍にふえたと。感染者は20代から40代の男性だというふうに言われておりまして、確かに子どものためを思った予防接種ではあるんですけども、やはりそういった20代から40代の抵抗力がない

方に対しても推進すべきじゃないかという考えで、今回、この質問項目を挙げたんですが、再度、その辺を検討いただければと思うんですが、いかがですか。全額免除ということにはならないかもしれませんが、推進をしていただきたいと思うんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

糸魚川市内では、まだ幸いなことに風疹にかかった方はいらっしゃいませんが、首都圏を中心に風疹が大流行している中で、先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれるということが問題になっておりまして、上越管内でも発症者が出るようになりましてことから、まず、やはり先天性風疹症候群の赤ちゃんが出ないような形で対応したいということで、今回、緊急的にこういう対応をさせていただいたものでございまして、今回については、とりあえず赤ちゃんを救うことを目的に進めさせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

できないという回答なんでしょうけども、ぜひそういう男性に推進といいますか、啓発といいますか、そういったものをぜひお願いしたいと思います。

（3）番、子どもの医療費の助成制度での拡充であります。これも田原議員のところの答弁かと思いますが、高校までの入院については、本当に十日町と糸魚川市がツートップということで非常に誇らしいんですけども、この通院に関しては、ことし小千谷市が導入されるそうですが、20市町村で中学校卒業までの医療費の助成というふうになっております。

先ほども検討で、実施に向けてという回答なんですが、もうちょっと明確に年内に導入されるのか、来年度予算に盛り込むのか、その辺の考えもちょっとお伺いしたいなと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

来年度の予算に向けまして、検討していきたいということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

そうしましたら、ちょっと昨年のことを思い出していただきたいんですが、子どものインフルエンザ費の助成制度が、この入院費の助成対象を高校生までに引き上げることによって廃止になったんですね。後にインフルエンザがはやるおそれがあることから、対象を18歳から13歳未満までに縮小して復活させておるんですね。

糸魚川市の次世代育成支援後期行動計画の中には、インフルエンザ助成の対象を、1歳から18歳までというふうに明確に掲載されておりまして、中学校や高校など子どもがたくさん集まる場所での感染というのが一番恐ろしいわけですから、当然、私は18歳までに引き上げていただきたいという考えもあります。

そこで2つあるんですけども、要は、今言った中学校の通院を拡充することによってインフルエンザの助成制度をやめるとか、そういうことはぜひやめていただきたい、両方とも継続してやっていただきたいというのと、あと、やっぱり人が集まるところで蔓延、感染するわけですから、やっぱり中学校、高校も私は大きな予防策等を張らなきゃいけないエリアだと思いますので、その辺の考えを、ちょっと明確にご答弁いただきたいんですが、いかがなもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

昨年、インフルエンザが途中で実施ということで、医師会等のアドバイスといたしますが、相談の結果、重篤化しないためにも、ぜひ必要だということで始めたところでございます。

年齢は議員ご指摘の年齢とは違いますが、今のところ昨年と同じような形で実施させていただきたくておりますし、先ほども言いましたように中学生までの通院補助は、これは別にまたさせていただきたいと、検討するというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

中学校のほうは検討とか導入とか、今の段階で、はっきりやると言えないんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

これから実施計画、あるいは予算編成があるわけですが、その中に登載して、全庁で検討していくということで回答させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6 番（保坂 悟君）

これはこども課なんで、教育長でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

今、次長が答えたように、これからの中で、示せるものは示していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6 番（保坂 悟君）

日本一の子どもづくりを目指す糸魚川市でありますし、ほかの子育て支援は非常に頑張っていることも認めております。ただ単純に、ほかの20市町村がやっておる中で、糸魚川ができてないというのは非常に悲しいですし、何も全額無料化にするとは言ってません。530円のあれを負担しながらも、ぜひ中学校卒業までをきちんとサービスを向上していただきたいことを、強く要求しておきますので、よろしく願いいたします。

ちょっと時間がなくて本当にあれなんですけど、この特色あるまちづくり、もうける自治体産業ということで、佐賀県の武雄市ですかね、図書館を導入して5倍に利用者をふやしたと、いろんな事例がございます。ぜひぜひ糸魚川市も、待っていないで攻める自治体としてぜひ頑張ってくださいということをお願いして、私の一般質問を終わります。

以上です。

ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

本日はこれにとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後3時12分 延会

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+